

R7蒲郡市公共交通に関するアンケート 調査報告書(速報)

目 次

調査の概要	1
問1:回答者属性	2
回答者属性:回答種別	2
回答者属性:性別	3
回答者属性:年齢	4
回答者属性:お住まい	5
回答者属性:職業	6
回答者属性:自動車免許はお持ちですか	7
回答者属性:自家用車はお持ちですか	8
回答者属性:外出について	9
問2:外出頻度・目的	10
問 2-1:あなたは、どの程度の頻度で「外出」しますか。	10
問 2-2:【通勤・通学の場合】外出する頻度	11
問 2-2(続き):【通勤・通学の場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」	12
問 2-2(続き):【買い物の場合】外出する頻度	13
問 2-2(続き):【買い物の場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」	14
問 2-2(続き):【病院や福祉施設を利用する場合】外出する頻度	15
問 2-2(続き):【病院や福祉施設を利用する場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」	16
問3 公共交通に対する評価	17
問 3-1:日常の公共交通での移動に不便を感じていますか	17
問 3-1(続き):不便に感じる理由	18
問 3-2:公共交通(鉄道・バス・タクシー等)が「ない」あるいは「利用しづらい」ために、外出を控えたことがありますか	19
問4 「名鉄西尾・蒲郡線」の利用実態	20
問 4-1(1):あなたは名鉄西尾・蒲郡線をどの程度利用されますか	20
問 4-1(2):名鉄西尾・蒲郡線の主な利用目的	21
問 4-2: あなたが「名鉄西尾・蒲郡線を利用しない理由」	22
問 4-3:あなたが名鉄西尾・蒲郡線を利用するためには、どのような改善を望みますか	23
問 4-4(1):名鉄蒲郡線について	24
問 4-4(2):路線バス(西浦温泉前～蒲郡駅前)について	25

問5:バスの利用実態とその満足度	26
問 5-1(1):あなたはバスをどの程度利用されますか	26
問 5-1(2):利用するバスは何ですか	27
問 5-1(3):主なバスの利用目的	28
問 5-2:現状のバスのサービス水準(運行本数、ルート、車両等)について、満足していますか 29	
問 5-2(続き):満足な理由は	30
問 5-2(続き):不満な理由は	31
問6:コミュニティバスのあり方	32
問 6-1:あなたはくるりんバスについて知っていますか。	32
問 6-2:①今後の事業の拡大について	33
問 6-2:②今後のサービス水準について	34
問 6-2:③今後のネットワークとしてのあり方について	35
問7:蒲郡市の将来的な公共交通のあり方	36
問 7-1:蒲郡市内の公共交通は、どのような「目的」のために、優先して維持すべきか	36
問 7-2:鉄道・路線バス・支線バス等を維持するために年間約2億1千万円の財政負担をしていま す。この負担額を、どう思いますか	37
問 7-3:民間路線バスの市の財政負担について	38
問 7-4:「高齢者タクシー運賃助成事業」の財政負担について	39
問 7-5:市の財政負担が増大しても、市の役割として公共交通を維持していくべきか	40
問 7-6:市の公共交通について、今後は、一律ではなく、需要の多いところを中心にサービスを向 上するべきだと思いますか。	41
問 7-7:子どもたちが日常的に通学などに利用できるような公共交通を構築するべきだと思います か。	42
問 7-8:観光客や住民が利用できる観光・周遊を目的としたバス等の公共交通があるとよいと思 いますか。	43

調査の概要

調査概要

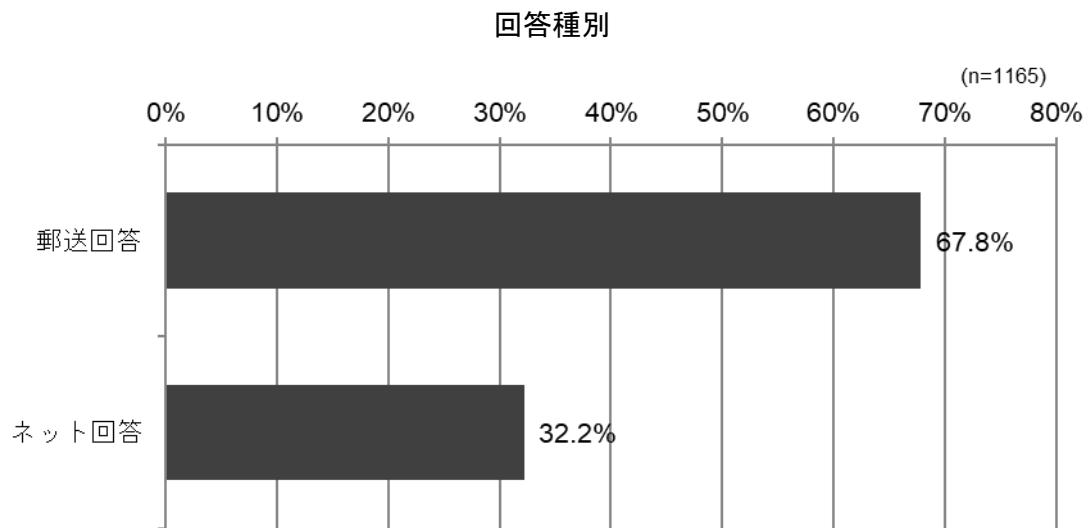
調査対象	蒲郡市在住の満16歳以上の方 3,000人(住民基本台帳から無作為抽出)
調査方法	郵送による配布・回収(オンライン回答併用)
調査期間	2025(R7)年8月8日(金)～9月1日(月) (9月20日到着分まで集計)
調査項目	問1:回答者属性 問2:外出頻度・目的 問3:公共交通に対する評価 問4:「名鉄西尾・蒲郡線」の利用実態 問5:バスの利用実態とその満足度 問6:コミュニティバスのあり方 問7:蒲郡市の将来的な公共交通のあり方
配布・回収数	配布数:3000票 回収数:1165票(うち、紙:774票、WEB:375票) 有効回答数:1165票(38.8%)

今回の調査結果(速報)は、単純集計について実施している。年齢階層別などのクロス分析については、次回以降、報告する。

問1：回答者属性

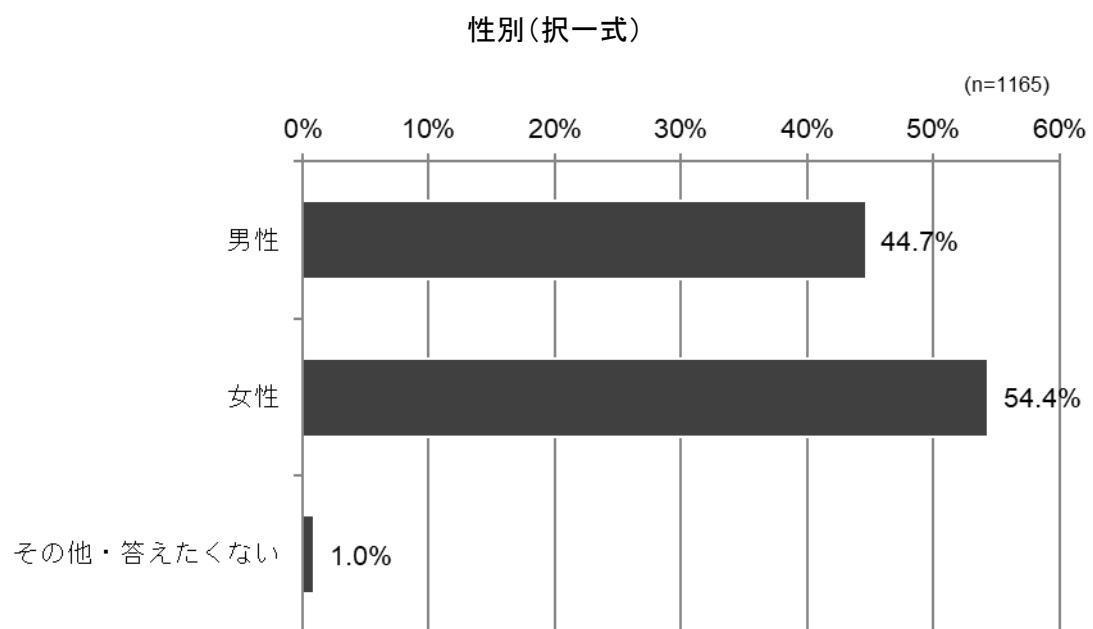
回答者属性：回答種別

「郵送回答」の割合が最も高く67.8%である。次いで、「ネット回答(32.2%)」である。



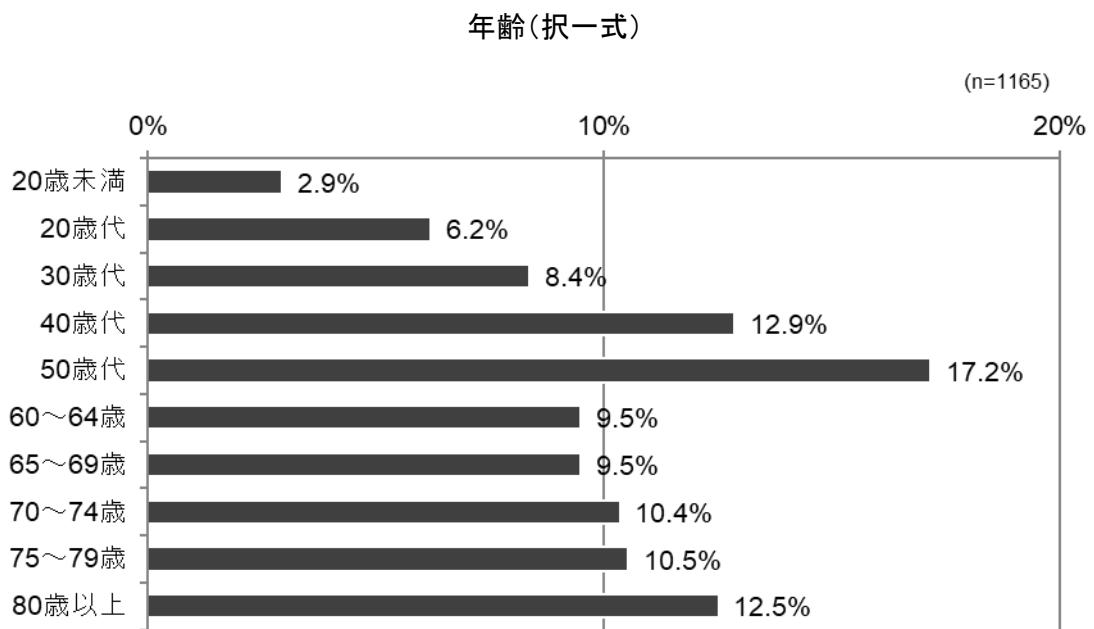
回答者属性：性別

「女性」の割合が最も高く54.4%である。次いで、「男性(44.7%)」である。



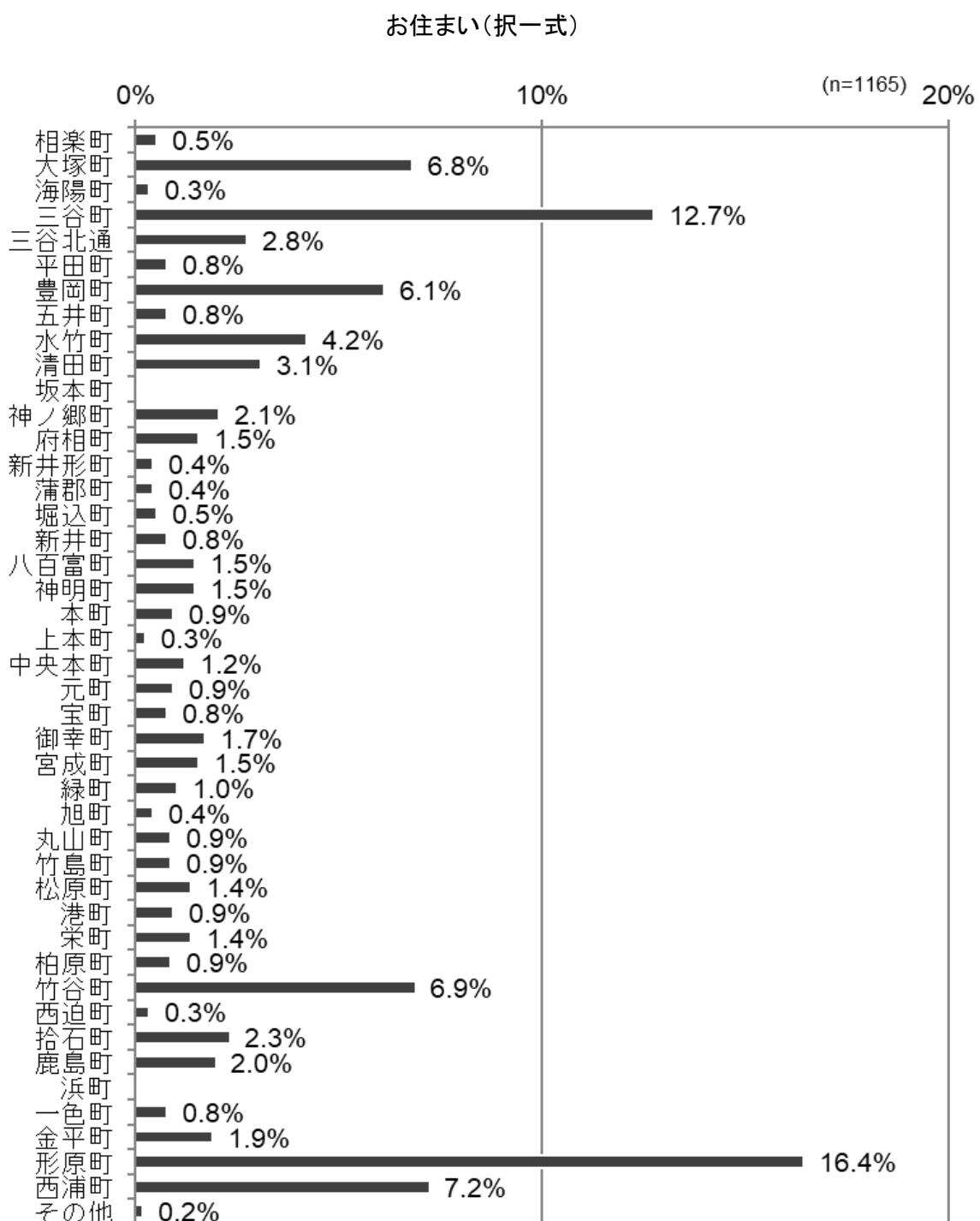
回答者属性：年齢

「50 歳代」の割合が最も高く 17.2% である。次いで、「40 歳代(12.9%)」、「80 歳以上(12.5%)」である。
回答は比較的高齢の方の回答が多いことに留意。



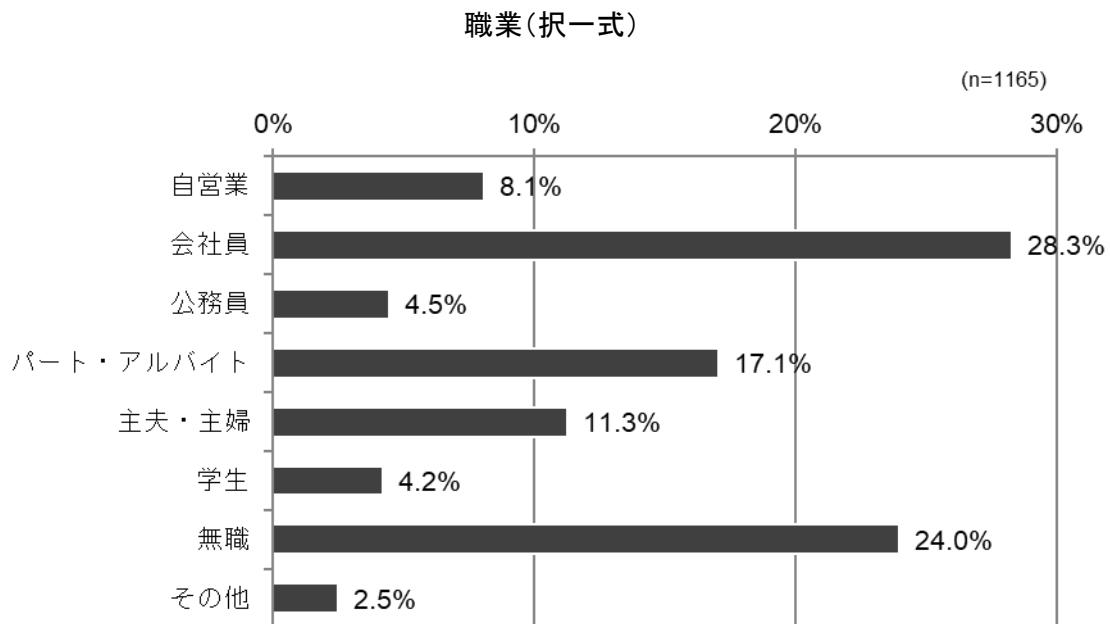
回答者属性：お住まい

「形原町」の割合が最も高く16.4%である。次いで、「三谷町(12.7%)」、「西浦町(7.2%)」である。



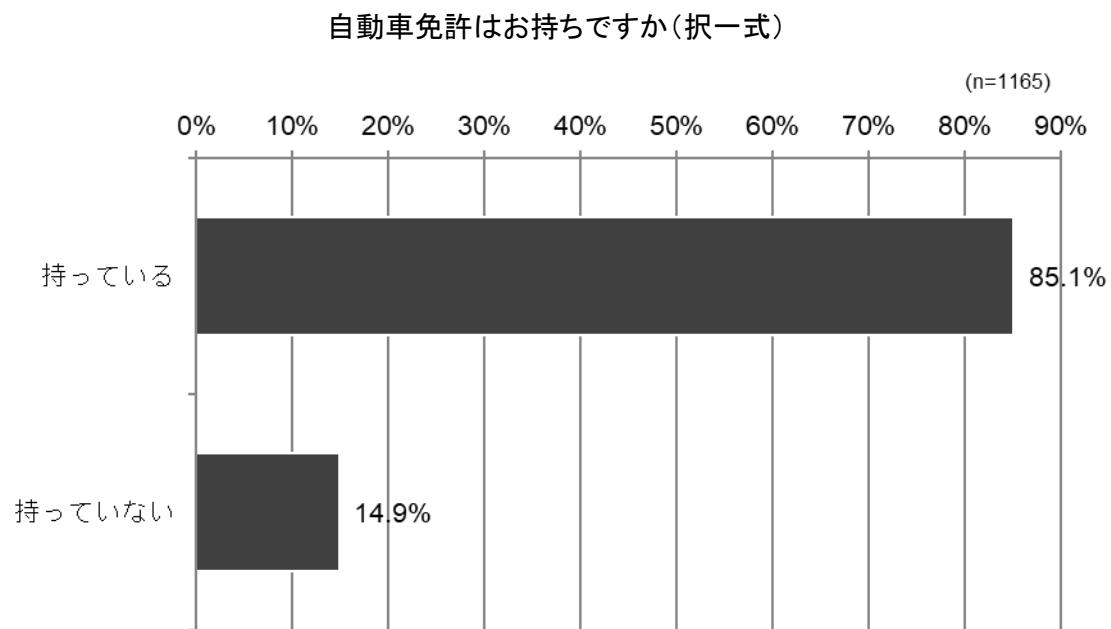
回答者属性：職業

「会社員」の割合が最も高く28.3%である。次いで、「無職(24.0%)」、「パート・アルバイト(17.1%)」である。



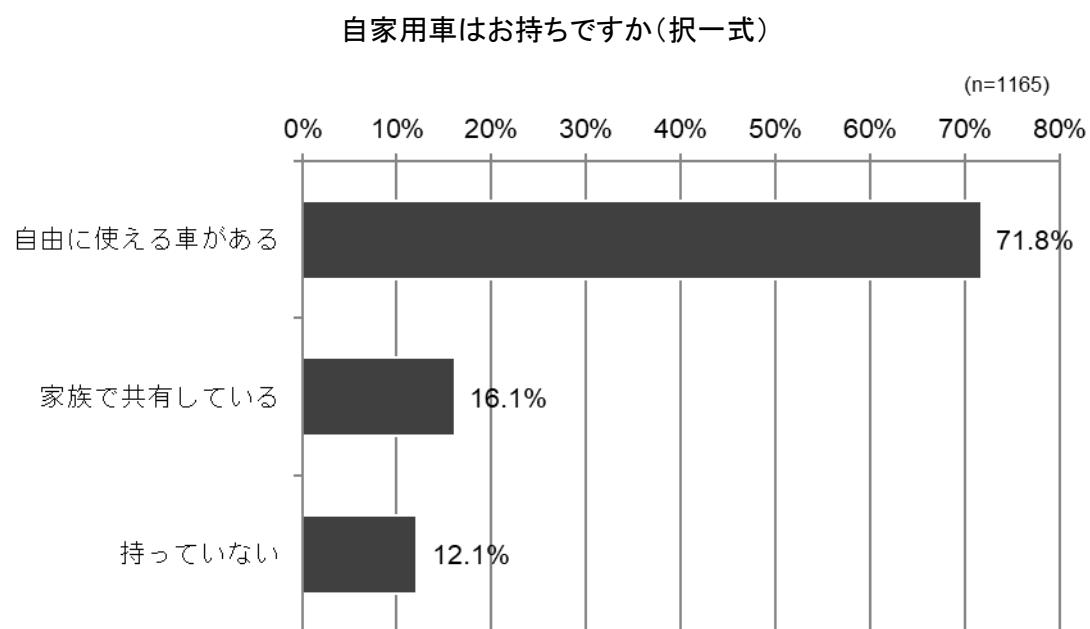
回答者属性：自動車免許はお持ちですか

「持っている」の割合が最も高く85.1%である。次いで、「持っていない(14.9%)」である。



回答者属性：自家用車はお持ちですか

「自由に使える車がある」の割合が最も高く71.8%である。次いで、「家族で共有している(16.1%)」、「持っていない(12.1%)」である。

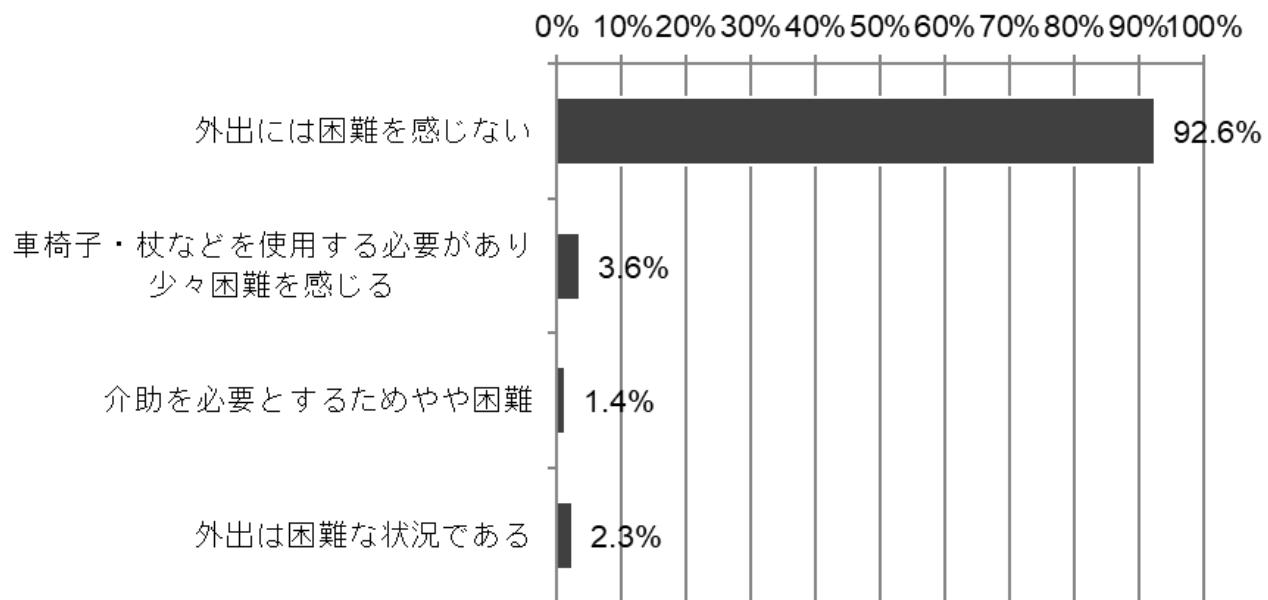


回答者属性：外出について

「外出には困難を感じない」の割合が最も高く92.6%である。次いで、「車椅子・杖などを使用する必要があり少々困難を感じる(3.6%)」、「外出は困難な状況である(2.3%)」である。

外出について(択一式)

(n=1165)

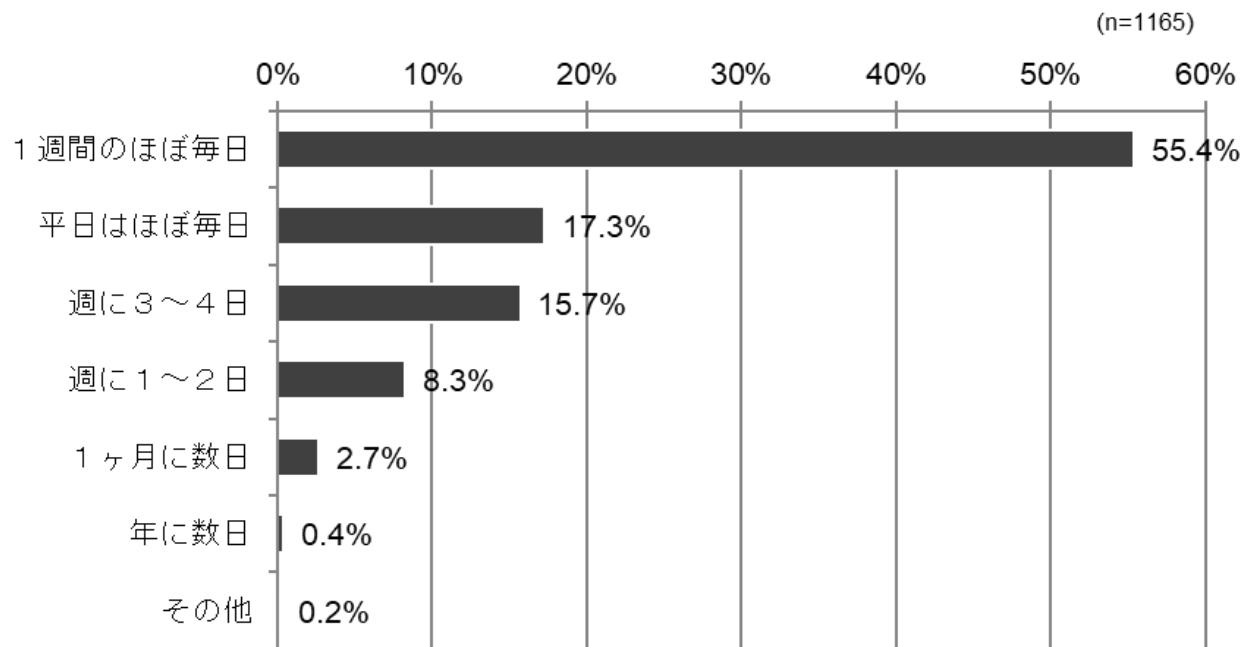


問2:外出頻度・目的

問 2-1：あなたは、どの程度の頻度で「外出」しますか。

「1週間のほぼ毎日」の割合が最も高く55.4%である。次いで、「平日はほぼ毎日(17.3%)」、「週に3～4日(15.7%)」である。

問 2-1:あなたは、どの程度の頻度で「外出」しますか。(択一式)

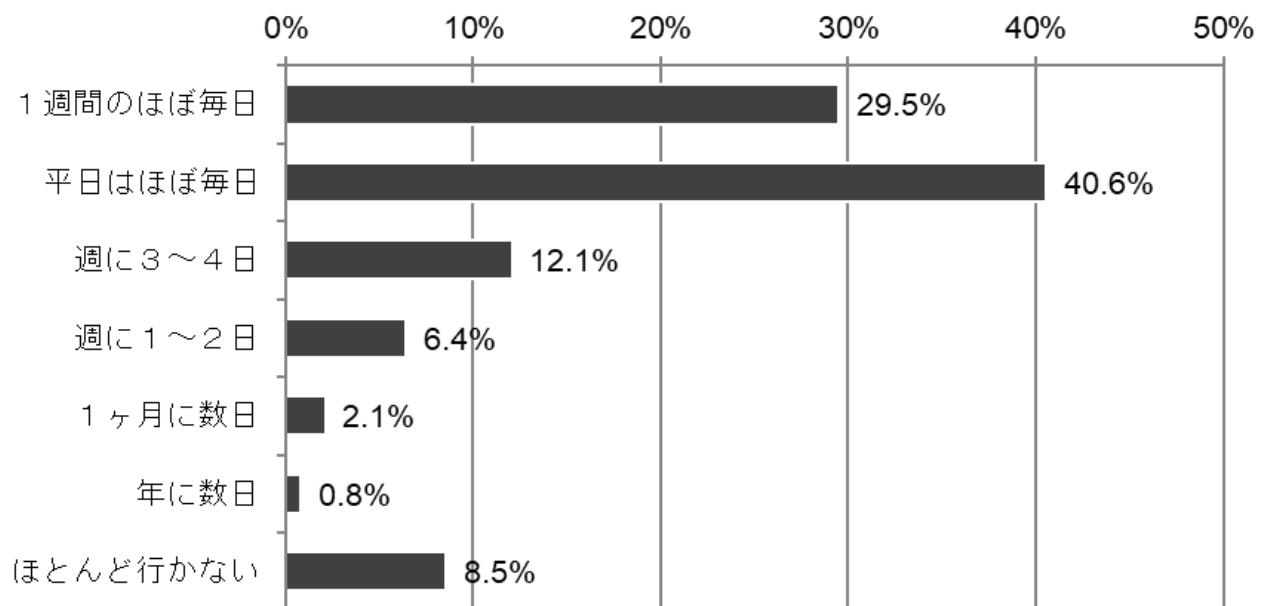


問 2-2 :【通勤・通学の場合】外出する頻度

「平日はほぼ毎日」の割合が最も高く40.6%である。次いで、「1週間のほぼ毎日(29.5%)」、「週に3~4日(12.1%)」である。

問 2-2:【通勤・通学の場合】外出する頻度(択一式)

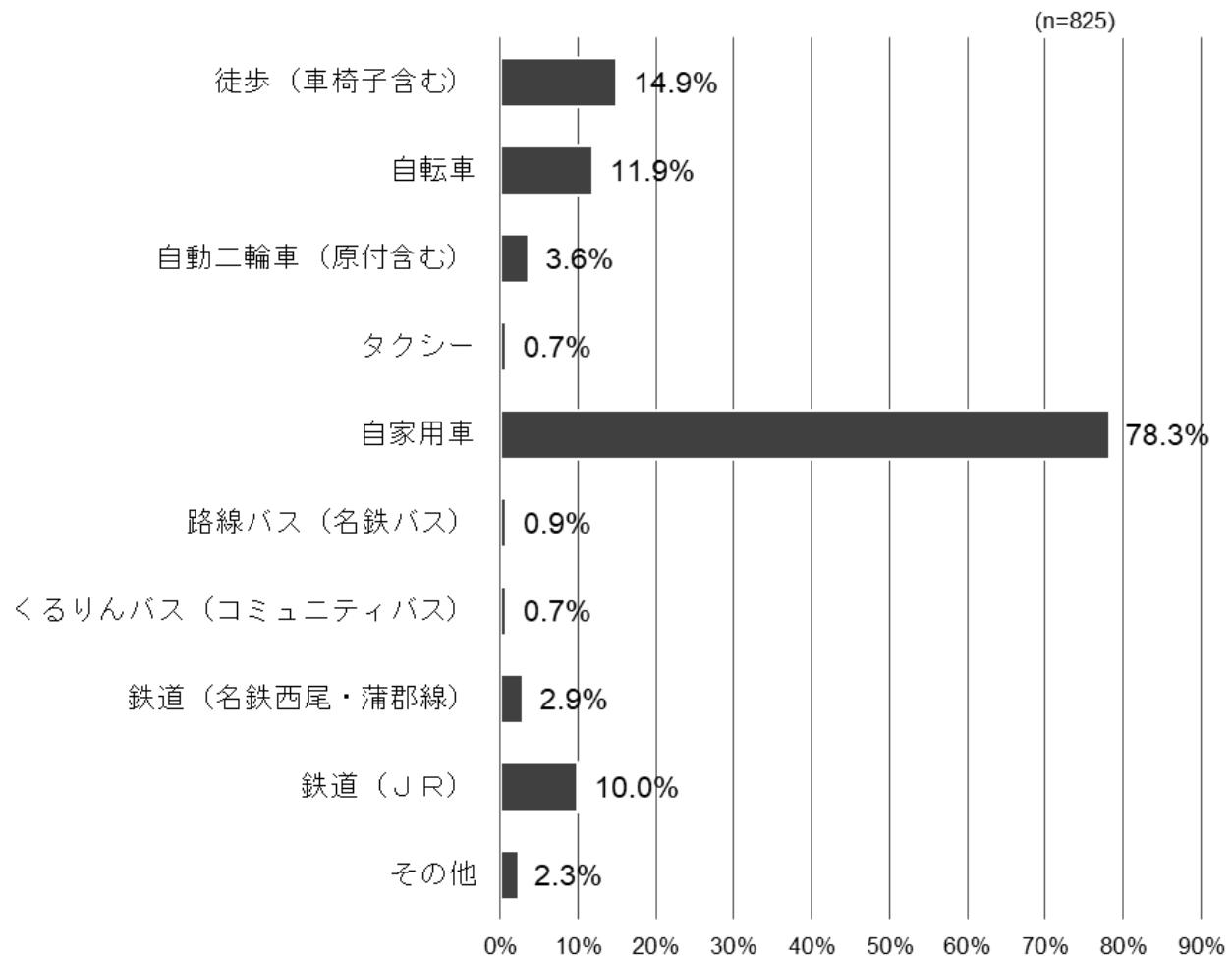
(n=1165)



問 2-2（続き）：【通勤・通学の場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」

「自家用車」の割合が最も高く78.3%である。次いで、「徒歩(車椅子含む)(14.9%)」、「自転車(11.9%)」である。

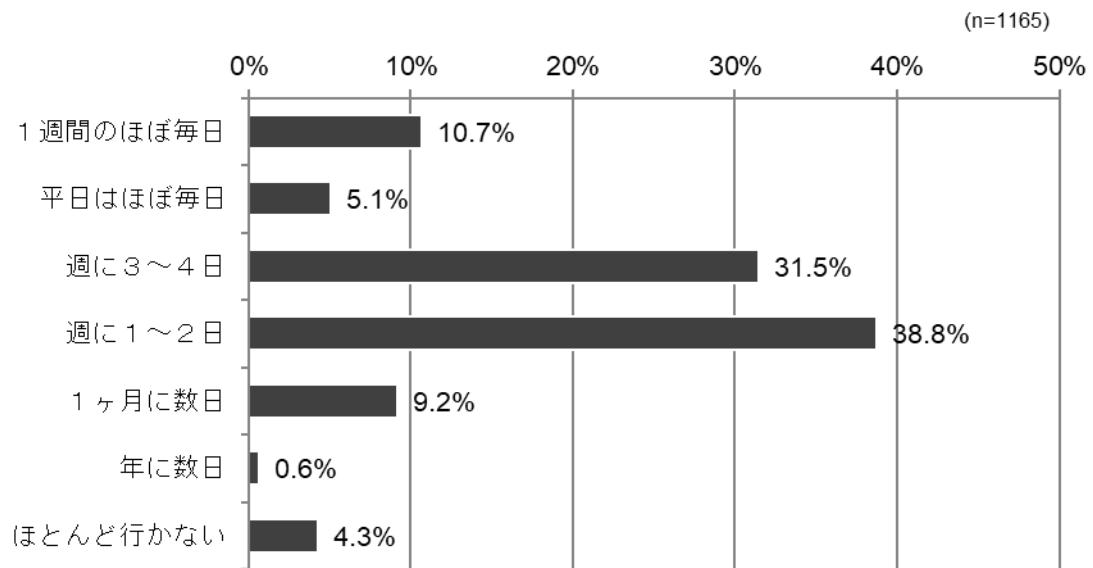
問 2-2(続き)：【通勤・通学の場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」(複数選択式)



問 2-2（続き）：【買い物の場合】外出する頻度

「週に1～2日」の割合が最も高く38.8%である。次いで、「週に3～4日(31.5%)」、「1週間のほぼ毎日(10.7%)」である。

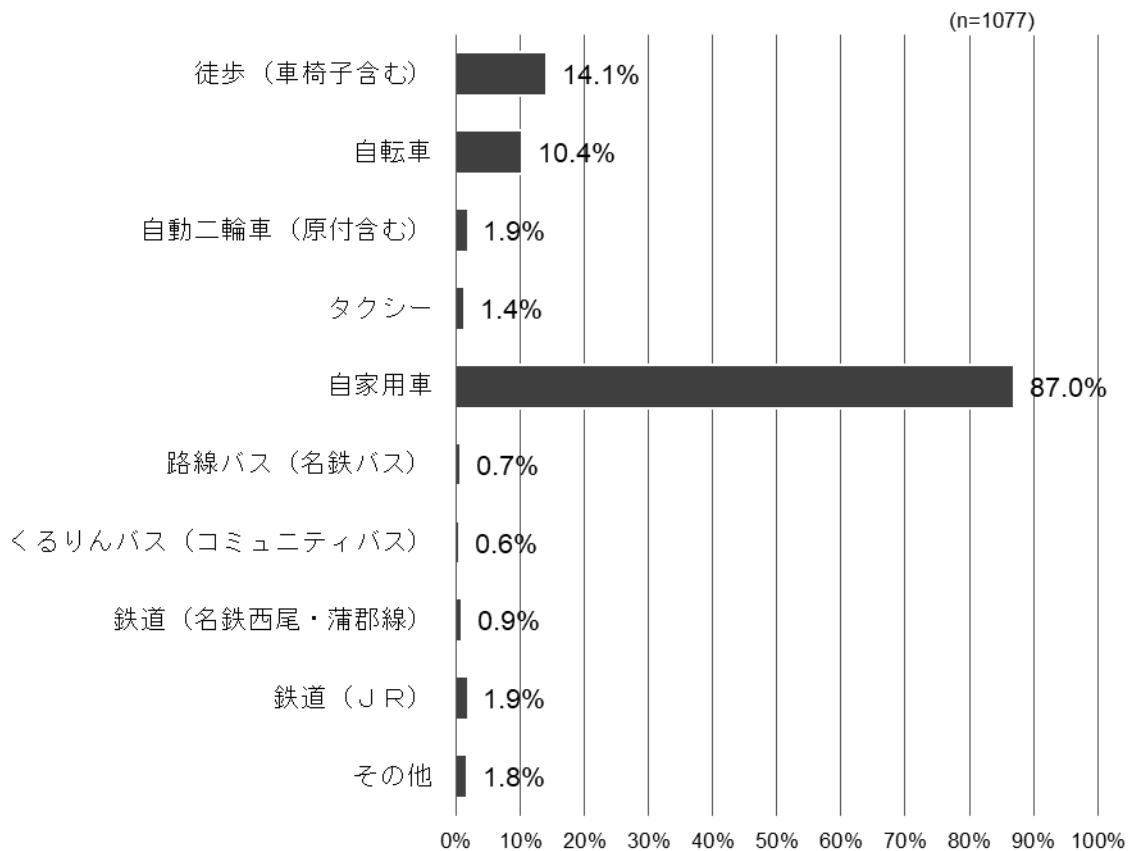
問 2-2(続き)：【買い物の場合】外出する頻度は(択一式)



問 2-2（続き）：【買い物の場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」

「自家用車」の割合が最も高く87.0%である。次いで、「徒歩（車椅子含む）(14.1%)」、「自転車(10.4%)」である。

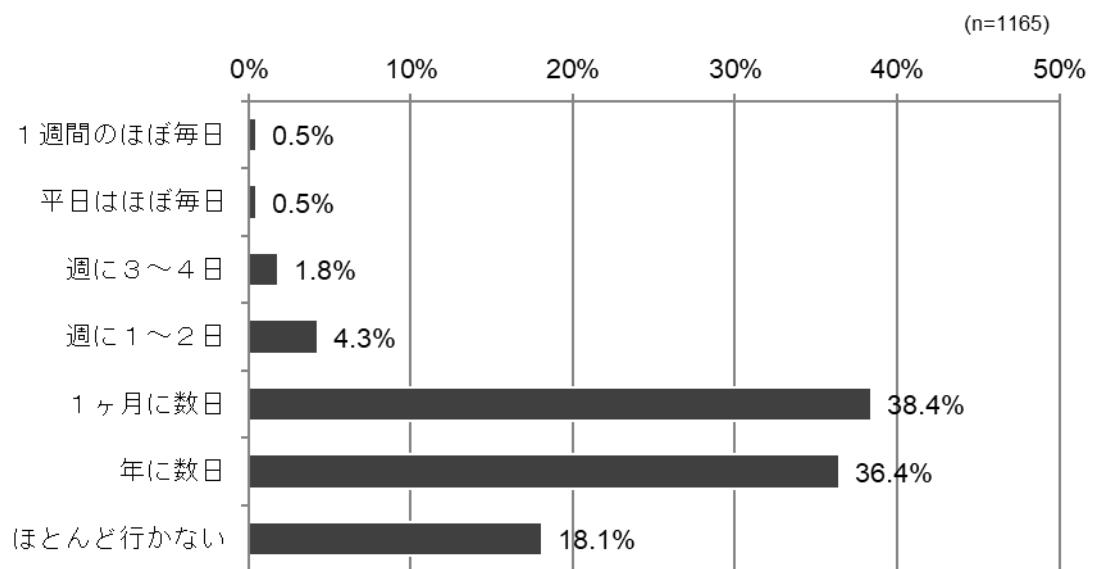
問 2-2(続き)：【買い物の場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」(複数選択式)



問 2-2（続き）：【病院や福祉施設を利用する場合】外出する頻度

「1ヶ月に数日」の割合が最も高く38.6%である。次いで、「年に数日(36.4%)」、「ほとんど行かない(18.1%)」である。

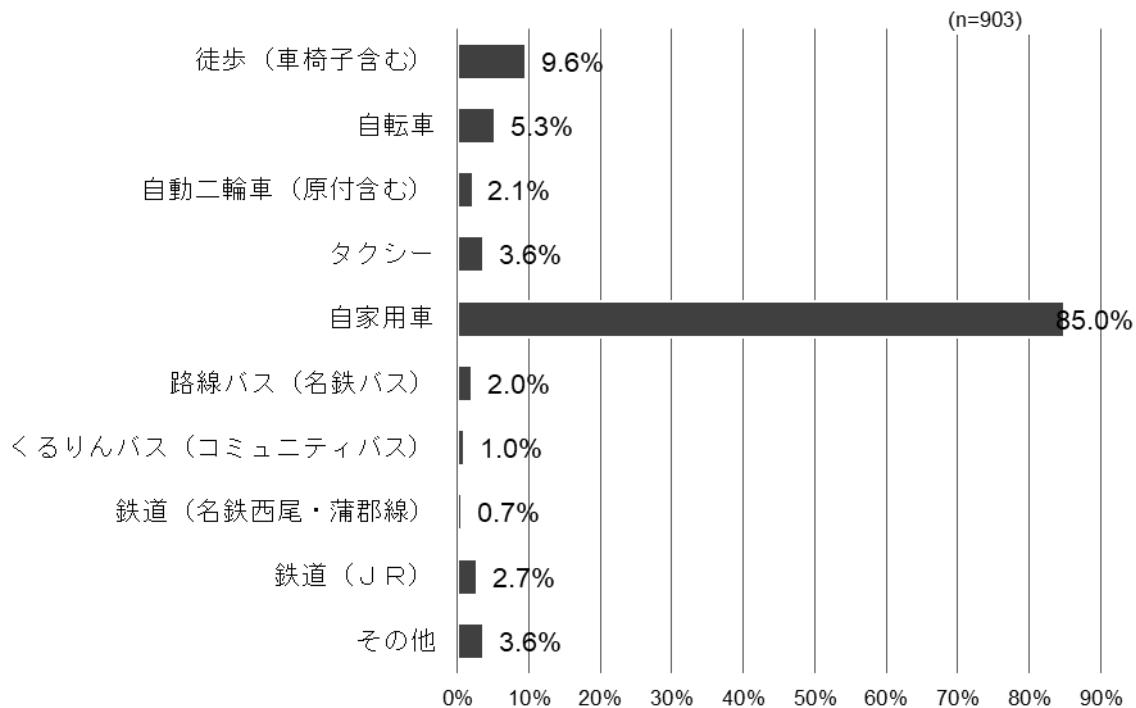
問 2-2(続き)：【病院や福祉施設を利用する場合】外出する頻度(択一式)



問 2-2（続き）：【病院や福祉施設を利用する場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」

「自家用車」の割合が最も高く85.0%である。次いで、「徒歩（車椅子含む）（9.6%）」、「自転車（5.3%）」である。

問 2-2(続き)：【病院や福祉施設を利用する場合】その時の蒲郡市内における「交通手段」（複数選択式）

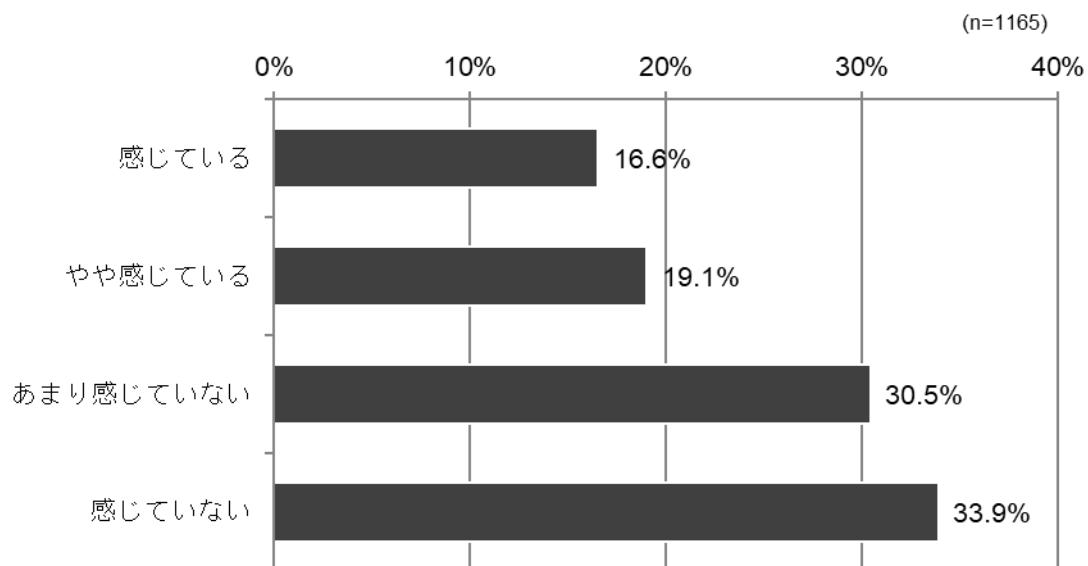


問3 公共交通に対する評価

問 3-1：日常の公共交通での移動に不便を感じていますか

「感じていない」の割合が最も高く33.9%である。次いで、「あまり感じていない(30.5%)」、「やや感じている(19.1%)」である。

問 3-1: 日常の公共交通での移動に不便を感じていますか(択一式)



(無回答補正後)

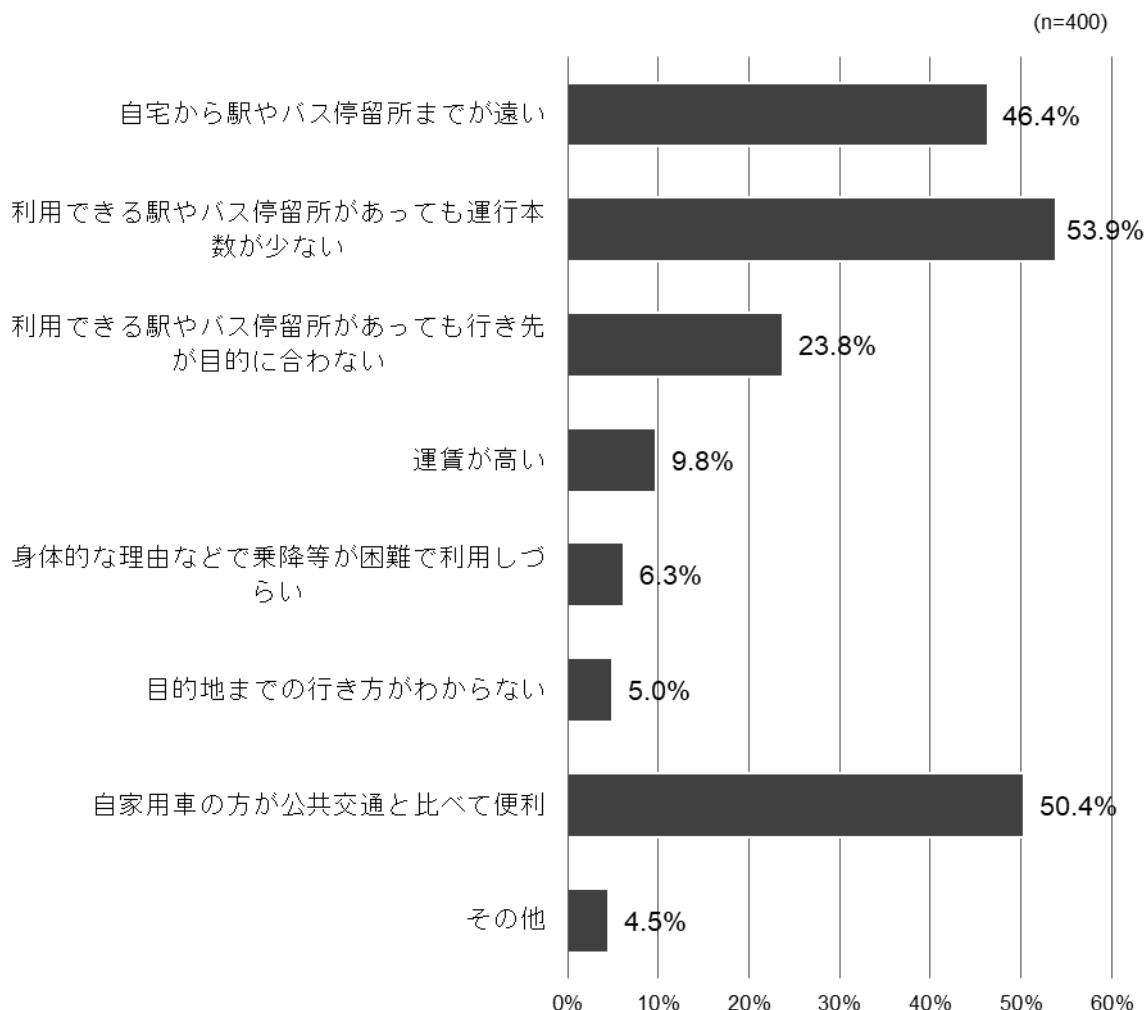
「感じている」「やや感じている」人の割合は、35.7%である。目標値 30%未達。

問3-1（続き）：不便に感じる理由

「利用できる駅やバス停留所があっても運行本数が少ない」の割合が最も高く53.9%である。次いで、「自家用車の方が公共交通と比べて便利(50.4%)」、「自宅から駅やバス停留所までが遠い(46.4%)」である。

不便に感じる理由は、運賃ではなく、運行本数の少なさと駅・バス停が遠いとの回答が多い。

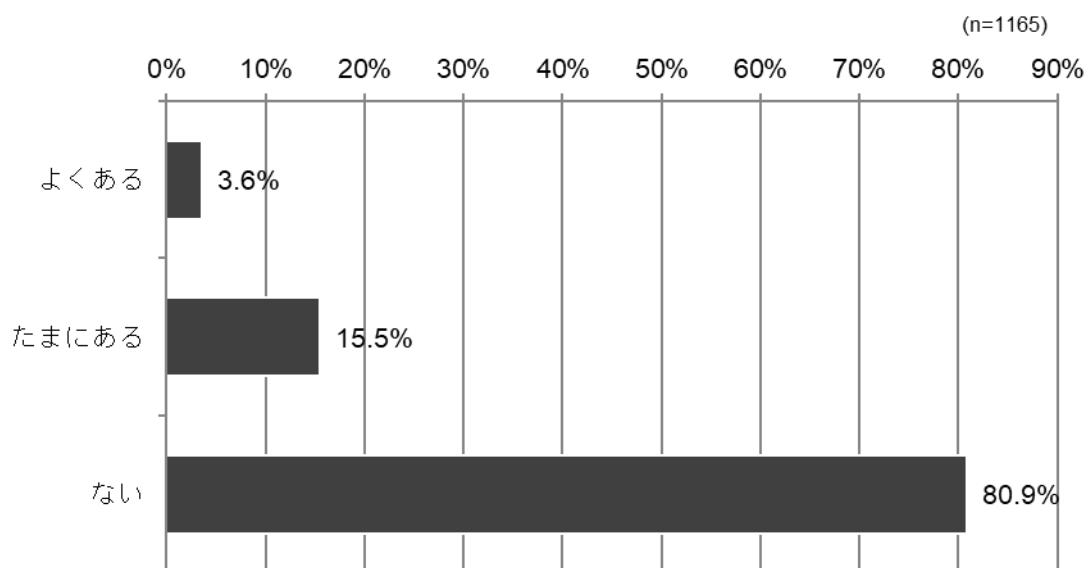
問3-1(続き)：不便に感じる理由(複数選択式)



問 3-2：公共交通（鉄道・バス・タクシー等）が「ない」あるいは「利用しづらい」ために、外出を控えたことがありますか

「ない」の割合が最も高く80.9%である。次いで、「たまにある(15.5%)」、「よくある(3.6%)」である。
公共交通が「ない」あるいは「利用しづらい」ために外出を控えた経験があると回答した人の割合が2割程度。

問 3-2:公共交通(鉄道・バス・タクシー等)が「ない」あるいは「利用しづらい」ために、外出を控えたことがありますか(択一式)

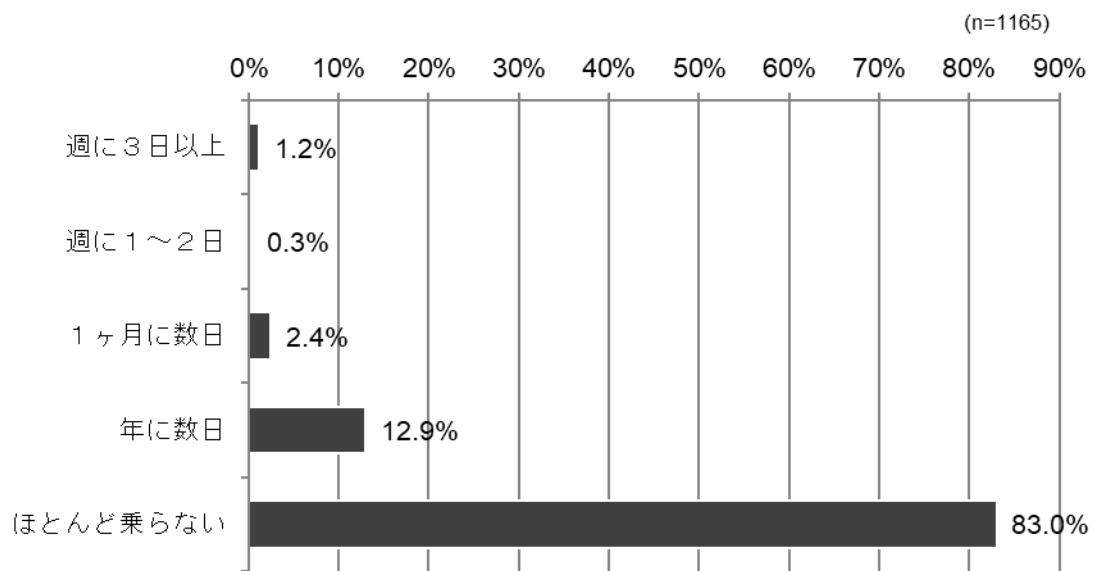


問4 「名鉄西尾・蒲郡線」の利用実態

問 4-1 (1) : あなたは名鉄西尾・蒲郡線をどの程度利用されますか

「ほとんど乗らない」の割合が最も高く83.0%である。次いで、「年に数日(12.9%)」、「1ヶ月に数日(2.4%)」である。

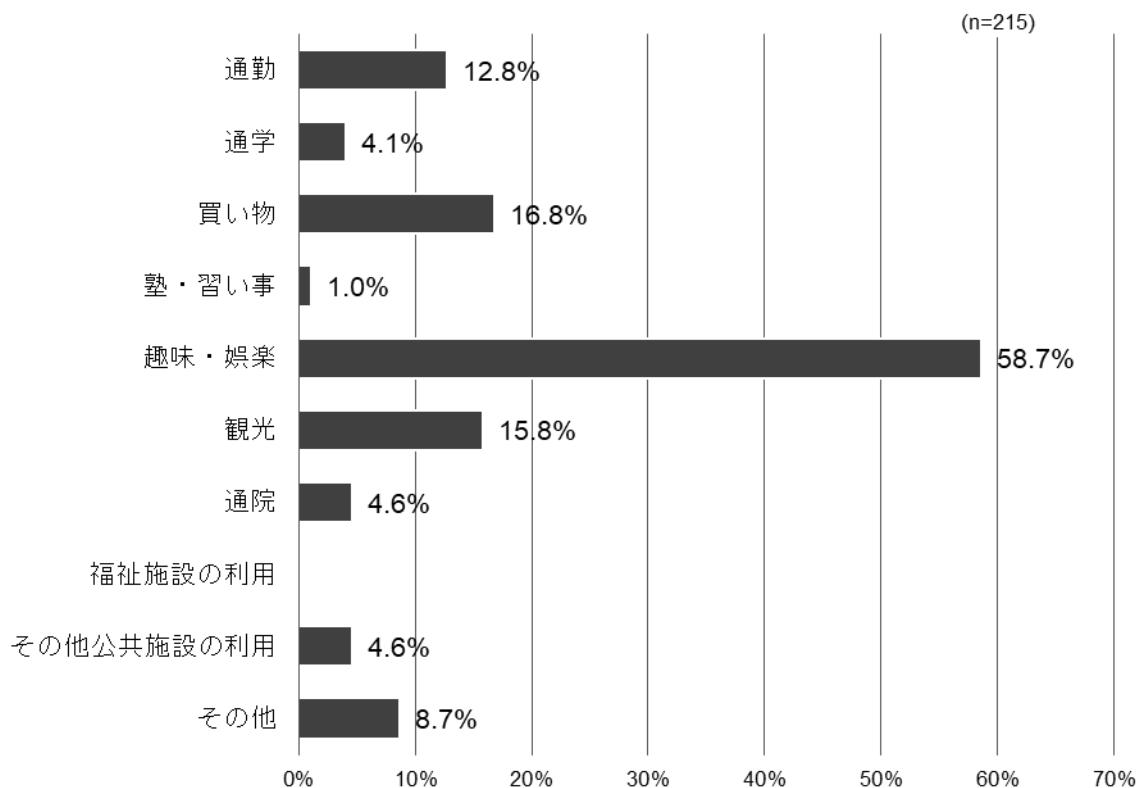
問 4-1:(1)あなたは名鉄西尾・蒲郡線をどの程度利用されますか(択一式)



問 4-1 (2)：名鉄西尾・蒲郡線の主な利用目的

「趣味・娯楽」の割合が最も高く58.7%である。次いで、「買い物(16.8%)」、「観光(15.8%)」である。

問 4-1:(2)名鉄西尾・蒲郡線の主な利用目的(複数選択式)

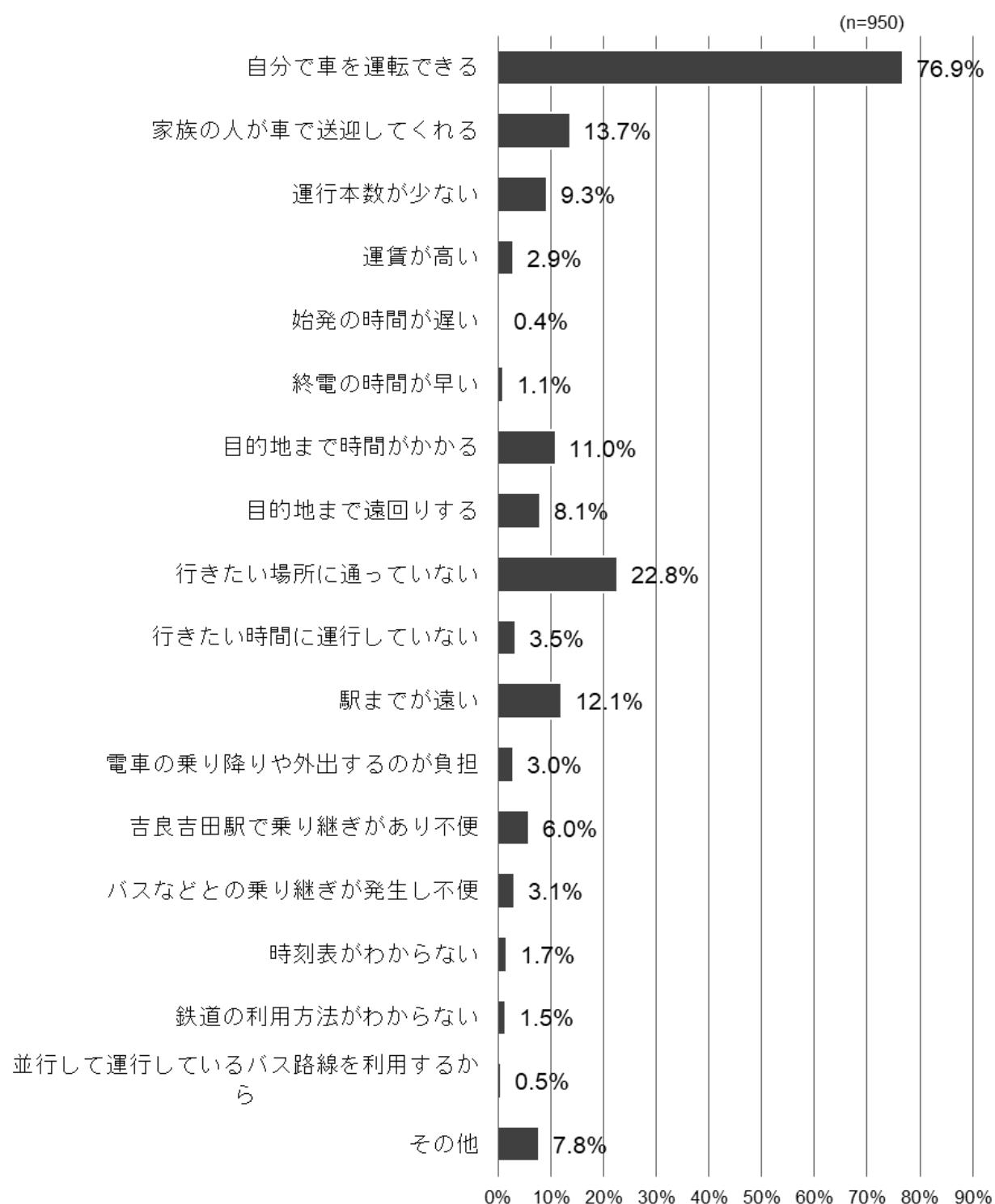


名鉄西尾・蒲郡線を利用しない方にお伺いします。(問4-1で、「ほとんど乗らない」を選択した方)

問4-2：あなたが「名鉄西尾・蒲郡線を利用しない理由」

「自分で車を運転できる」の割合が最も高く76.9%である。次いで、「行きたい場所に通っていない(22.8%)」、「家族の人が車で送迎してくれる(13.7%)」である。

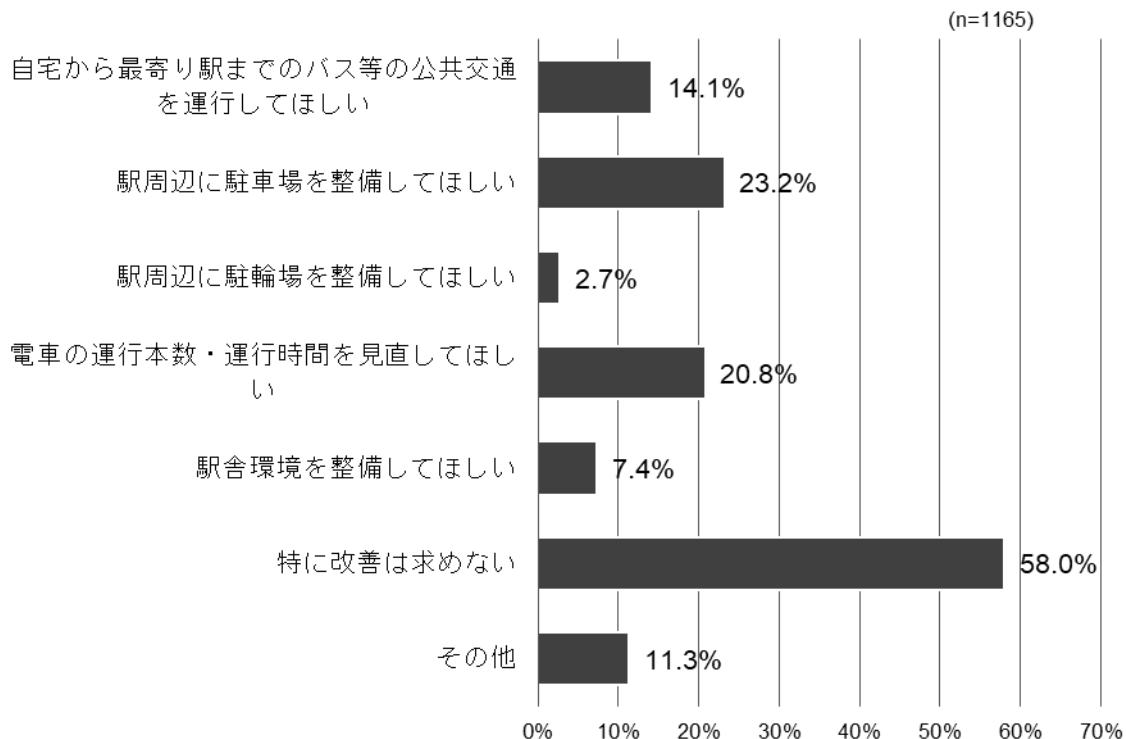
問4-2:名鉄西尾・蒲郡線を利用しない方にお伺いします。(問4-1で、5を選択した方) あなたが「名鉄西尾・蒲郡線を利用しない理由」(複数選択式)



問 4-3：あなたが名鉄西尾・蒲郡線を利用するためには、どのような改善を望みますか

「特に改善は求めない」の割合が最も高く58.0%である。次いで、「駅周辺に駐車場を整備してほしい(23.2%)」、「電車の運行本数・運行時間を見直してほしい(20.8%)」である。

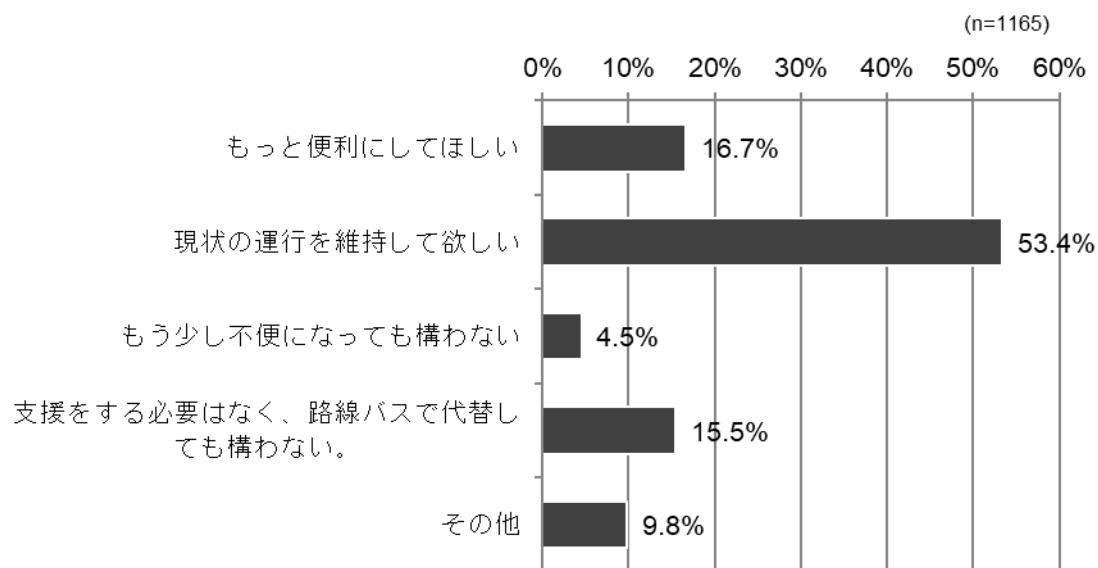
問 4-3:あなたが名鉄西尾・蒲郡線を利用するためには、どのような改善を望みますか(複数選択式)



問4-4（1）：名鉄蒲郡線について

「現状の運行を維持して欲しい」の割合が最も高く53.4%である。次いで、「もっと便利にしてほしい（16.7%）」、「支援をする必要はなく、路線バスで代替しても構わない。（15.5%）」である。

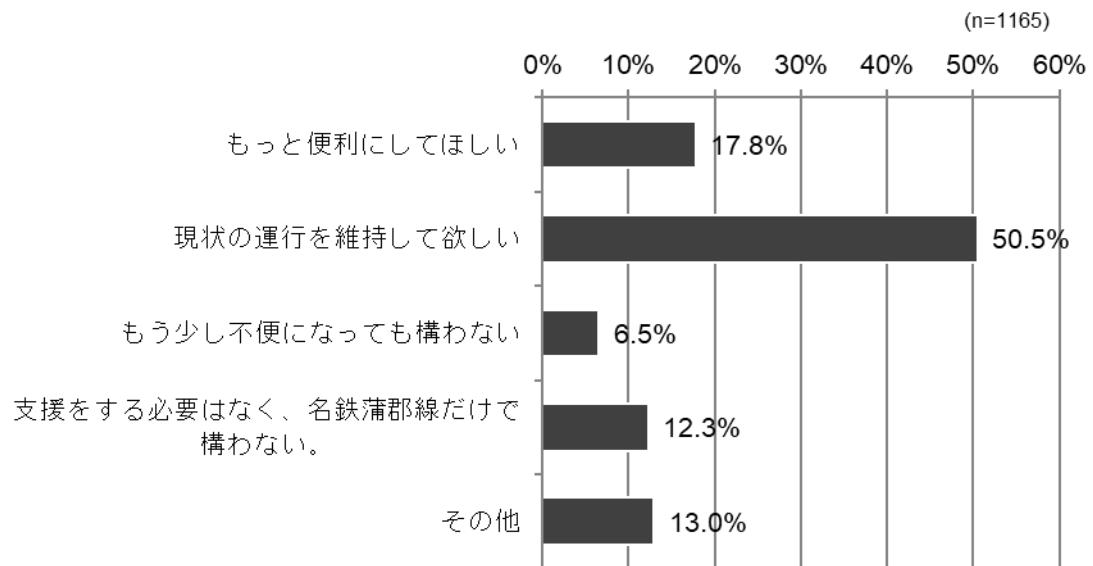
問4-4(1)：名鉄蒲郡線について(択一式)



問 4-4（2）：路線バス（西浦温泉前～蒲郡駅前）について

「現状の運行を維持して欲しい」の割合が最も高く50.5%である。次いで、「もっと便利にしてほしい（17.8%）」、「その他（13.0%）」である。

問 4-4(2)：路線バス（西浦温泉前～蒲郡駅前）について（択一式）



問5:バスの利用実態とその満足度

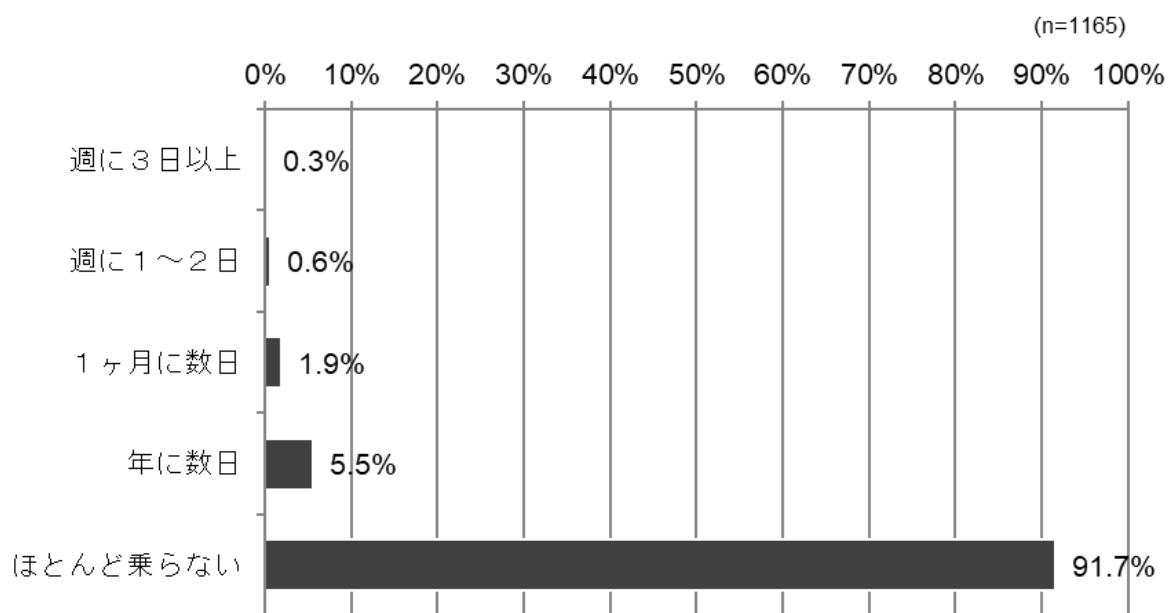
市内のバスの利用状況についてお伺いします。

問 5-1 (1) : あなたはバスをどの程度利用されますか

「ほとんど乗らない」の割合が最も高く91.7%である。次いで、「年に数日（5.5%）」、「1ヶ月に数日（1.9%）」である。

「ほとんど乗らない」人の割合は、前回から悪化。

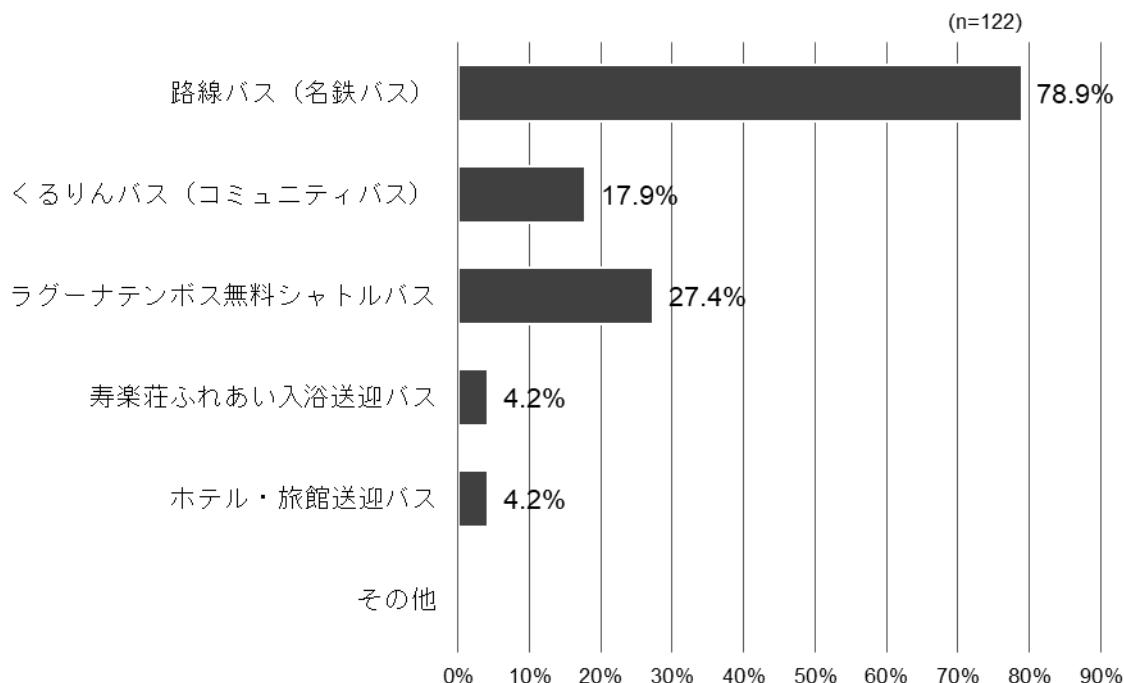
問 5-1(1): (1)あなたはバスをどの程度利用されますか(択一式)



問 5-1（2）：利用するバスは何ですか

「路線バス(名鉄バス)」の割合が最も高く78.9%である。次いで、「ラグーナテンボス無料シャトルバス(27.4%)」、「くるりんバス(コミュニティバス)(17.9%)」である。

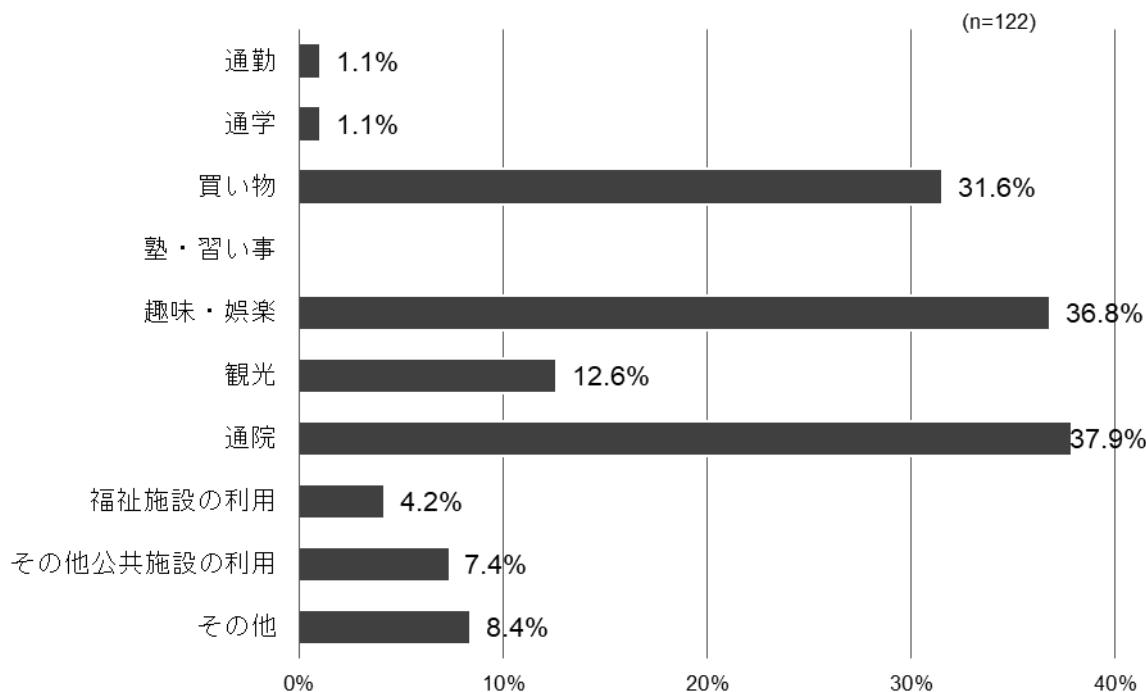
問 5-1(2)：利用するバスは何ですか(複数選択式)



問 5-1 (3) : 主なバスの利用目的

「通院」の割合が最も高く37.9%である。次いで、「趣味・娯楽(36.8%)」、「買い物(31.6%)」である。

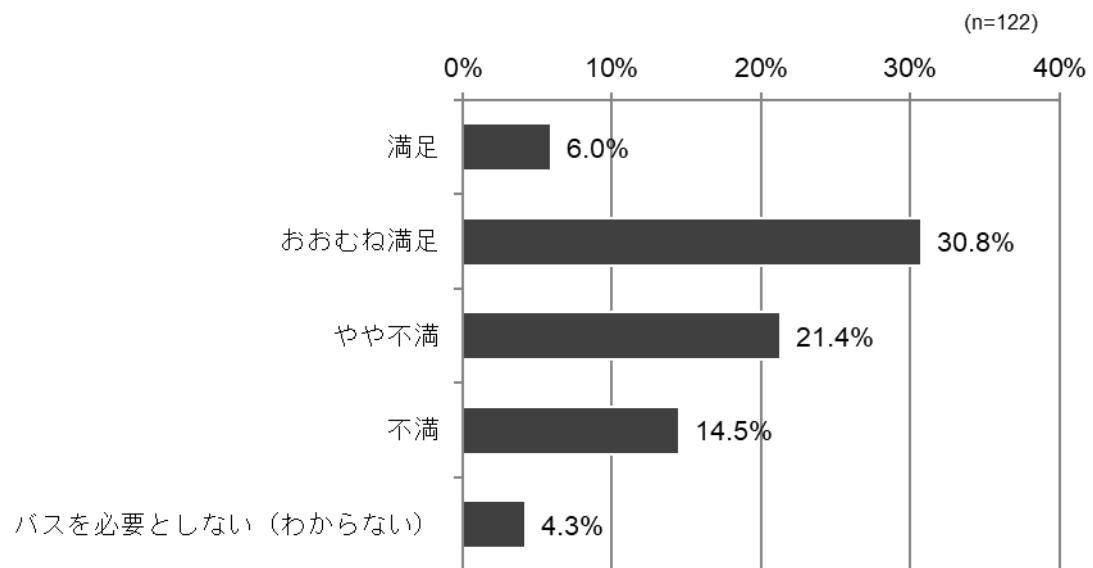
問 5-1(3) : 主なバスの利用目的(複数選択式)



問 5-2：現状のバスのサービス水準（運行本数、ルート、車両等）について、満足していますか

「おおむね満足」の割合が最も高く30.8%である。次いで、「やや不満(21.4%)」、「不満(14.5%)」である。
「満足」「おおむね満足」を選択した人の割合は、36.8%である。前回から改善。

問 5-2: 現状のバスのサービス水準(運行本数、ルート、車両等)について、満足していますか(択一式)

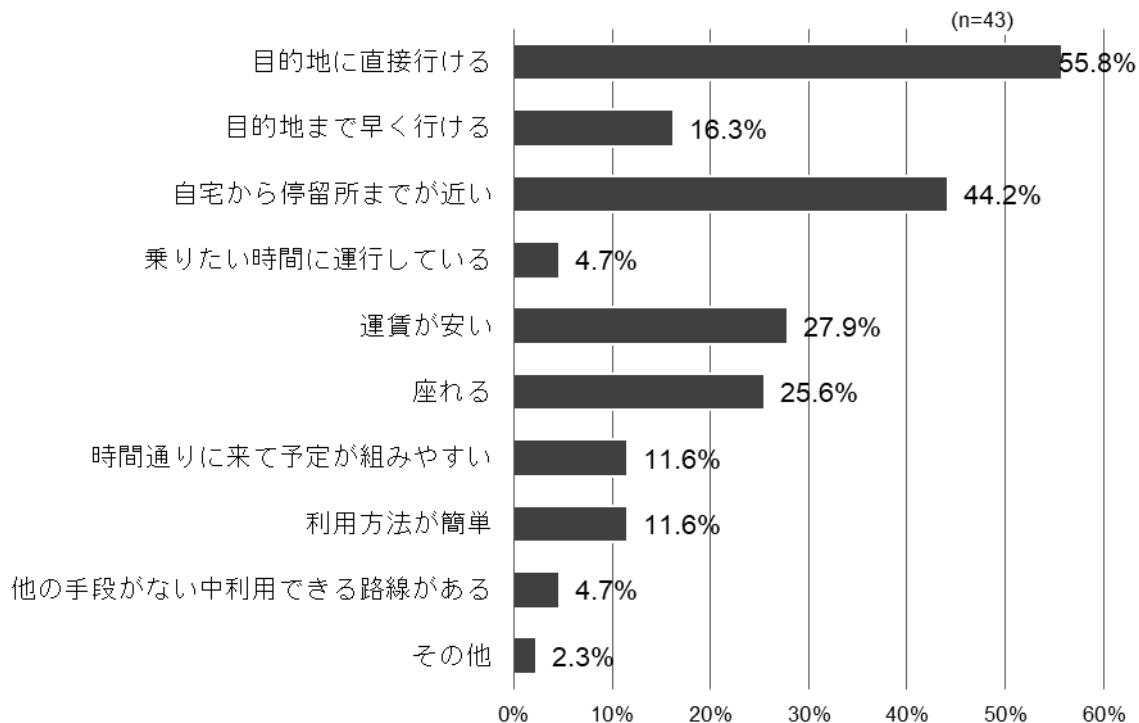


問 5-2（続き）：満足な理由は

「目的地に直接行ける」の割合が最も高く55.8%である。次いで、「自宅から停留所までが近い(44.2%)」、「運賃が安い(27.9%)」である。

バスに満足している人にとっては、特にバス停の位置が満足度を高めている。運賃・着席できることも満足度を高めている。

問 5-2 続：満足な理由は(複数選択式)

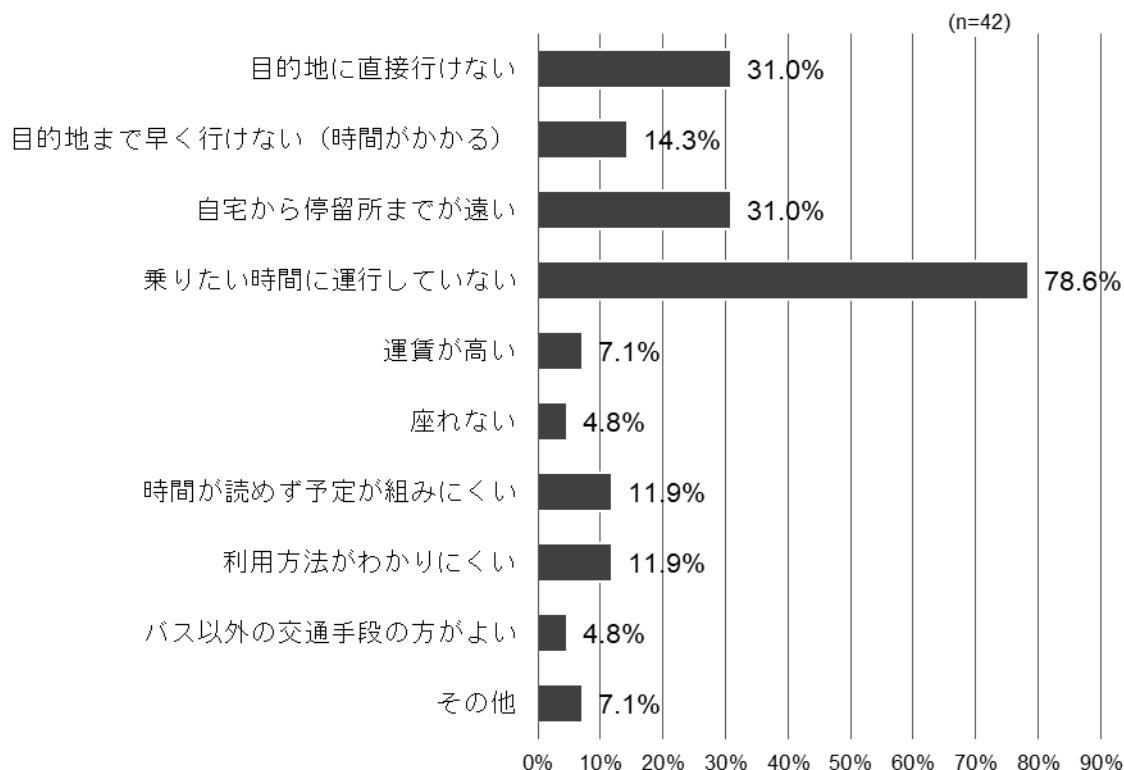


問 5-2（続き）：不満な理由は

「乗りたい時間に運行していない」の割合が最も高く78.6%である。次いで、「目的地に直接行けない(31.0%)」、「自宅から停留所までが遠い(31.0%)」、「目的地まで早く行けない(時間がかかる)(14.3%)」である。

バスに不満がある人にとっては、希望する時間(移動需要のある時間)での運行ができていない。また、バス停の位置の問題もある。

問 5-2 続：不満な理由は(複数選択式)



問6:コミュニティバスのあり方

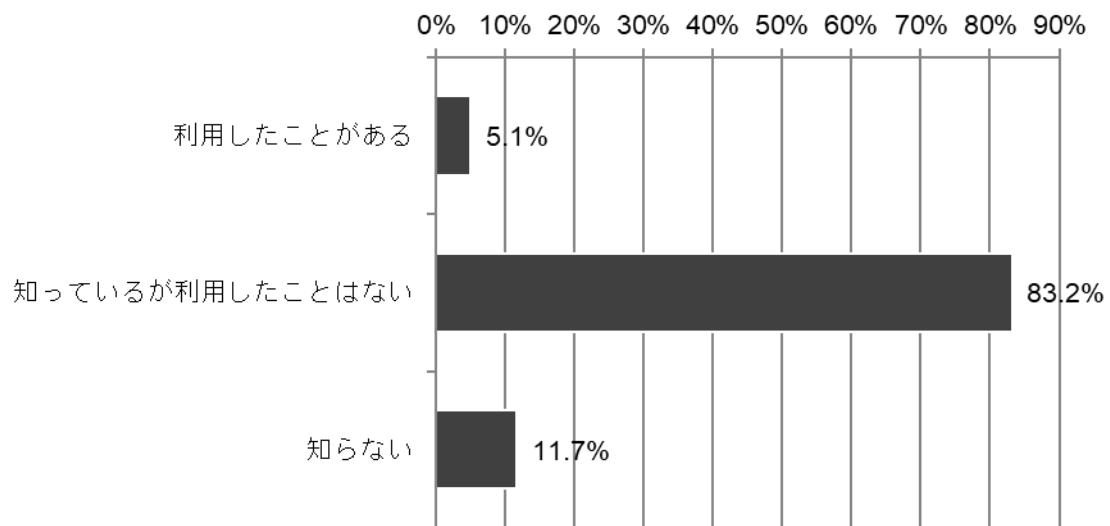
問 6-1：あなたはくるりんバスについて知っていますか。

「知っているが利用したことはない」の割合が最も高く83.2%である。次いで、「知らない(11.7%)」、「利用したことがある(5.1%)」である。

コミュニティバスの認知度は十分に向上したが、利用経験者の割合が極めて少ない。

問 6-1 あなたはくるりんバスについて知っていますか。(択一式)

(n=1165)



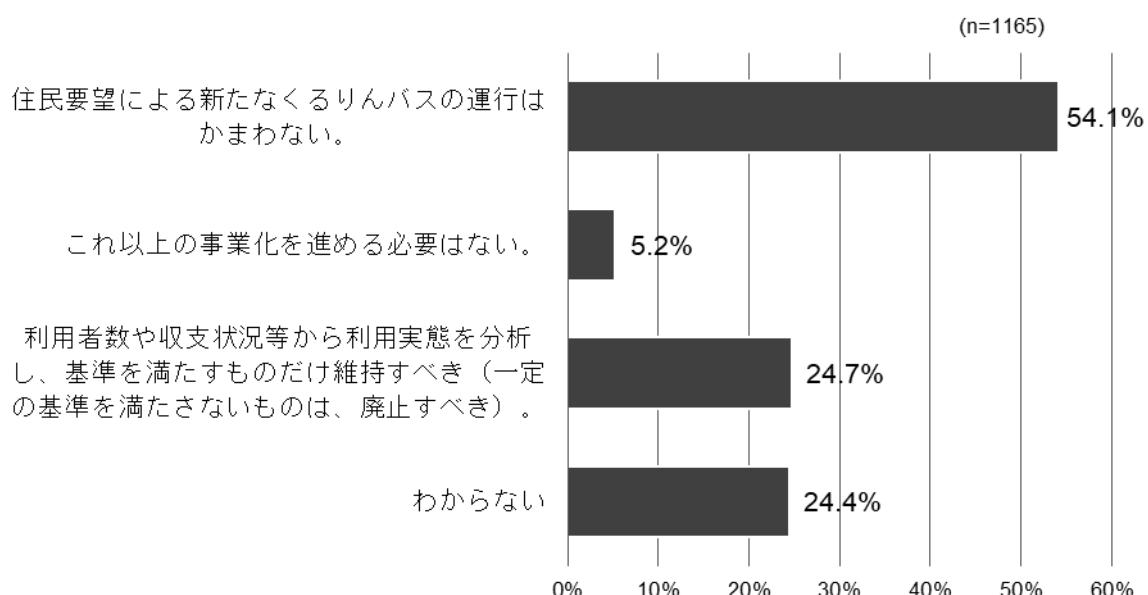
あなたは、「くるりんバスの将来」について、どのように思いますか。

問 6-2 : ①今後の事業の拡大について

「住民要望による新たなくるりんバスの運行はかまわない。」の割合が最も高く54.1%である。次いで、「利用者数や収支状況等から利用実態を分析し、基準を満たすものだけ維持すべき(一定の基準を満たさないものは、廃止すべき)。(24.7%)」、「わからない(24.4%)」である。

くるりんバスの新規運行は許容される傾向にある。

問 6-2:①今後の事業の拡大について(複数選択式)

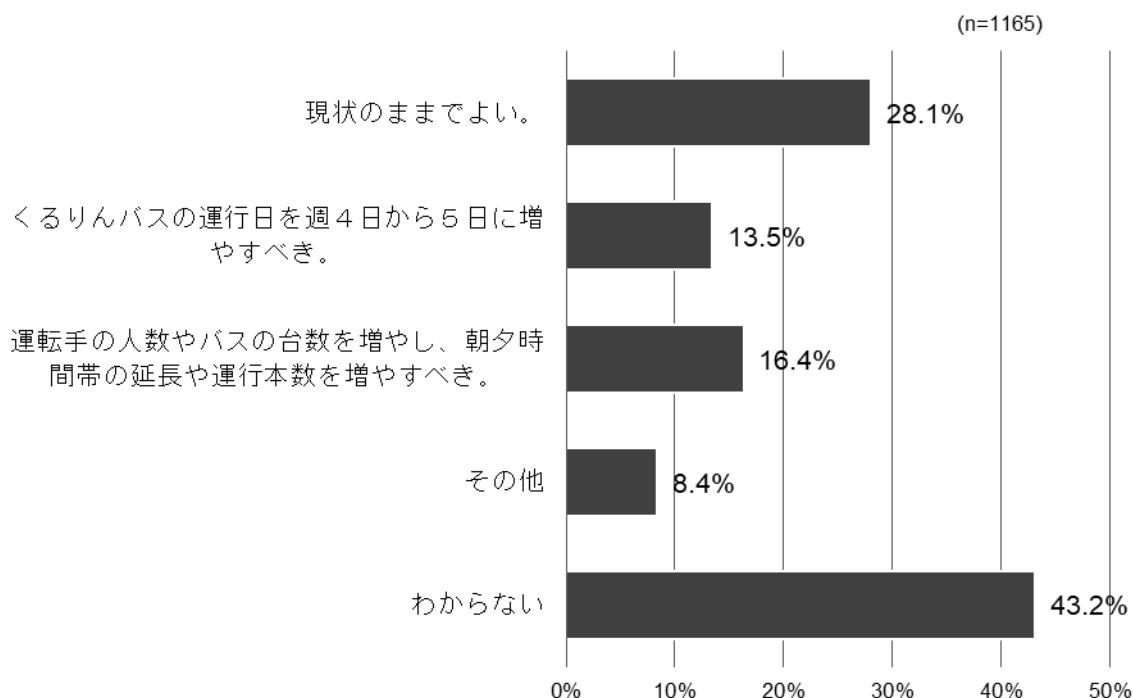


問 6-2 : ②今後のサービス水準について

「わからない」の割合が最も高く43.2%である。次いで、「現状のままでよい。(28.1%)」、「運転手の人数やバスの台数を増やし、朝夕時間帯の延長や運行本数を増やすべき。(16.4%)」である。

くるりんバスのサービス維持とサービス向上が拮抗している。

問 6-2:②今後のサービス水準について(複数選択式)

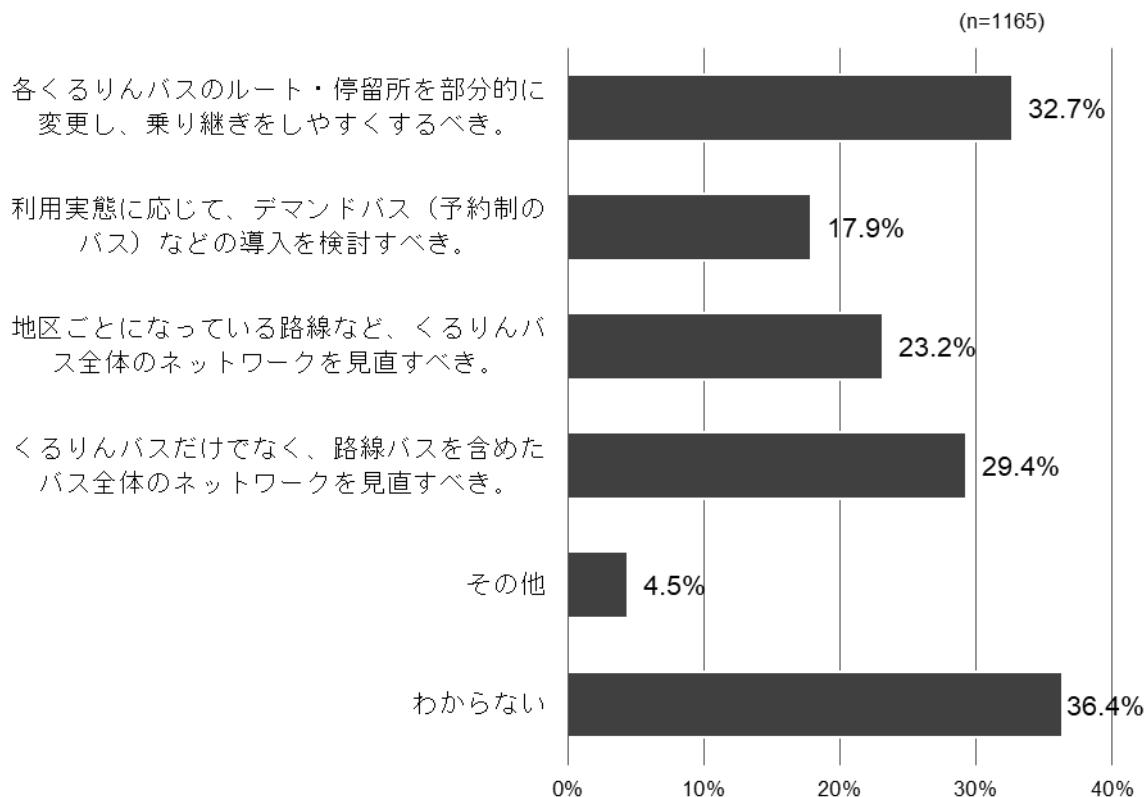


問 6-2 : ③今後のネットワークとしてのあり方について

「わからない」の割合が最も高く36.4%である。次いで、「各くるりんバスのルート・停留所を部分的に変更し、乗り継ぎをしやすくするべき。(32.7%)」、「くるりんバスだけでなく、路線バスを含めたバス全体のネットワークを見直すべき。(29.4%)」である。

バスの今後のネットワークのあり方については意見が拮抗している。

問 6-2:③今後のネットワークとしてのあり方について(複数選択式)



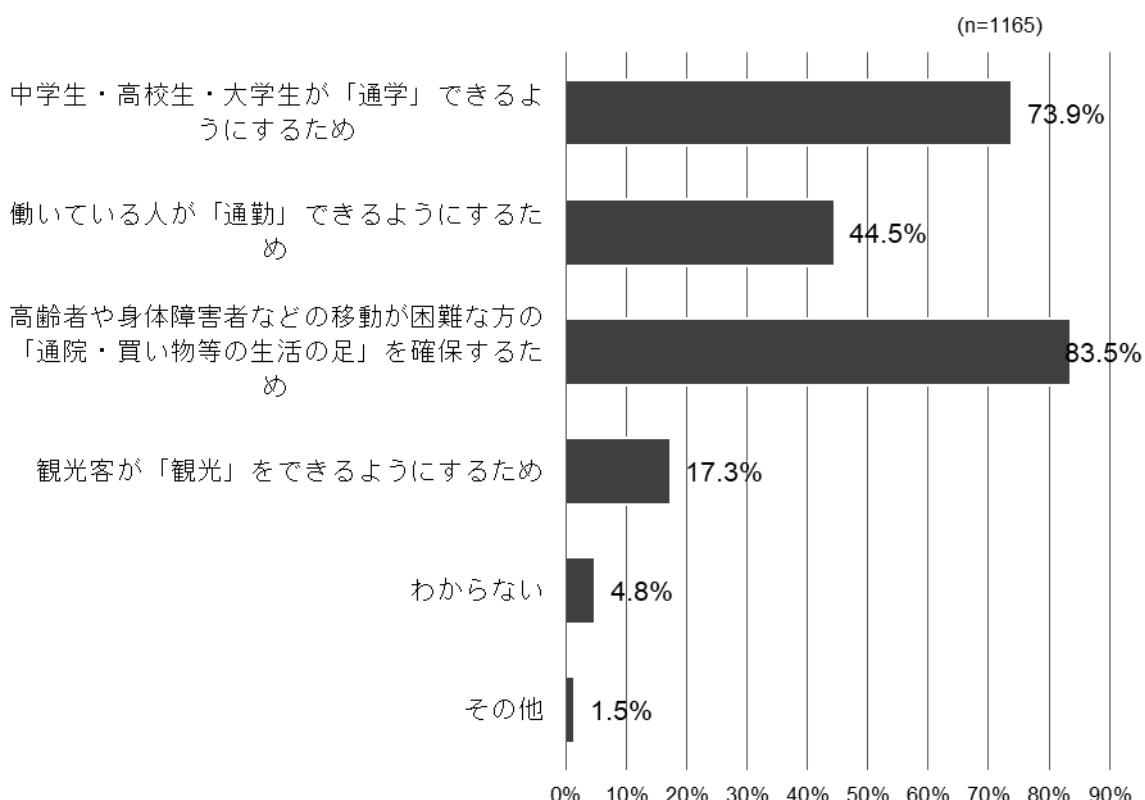
問7:蒲郡市の将来的な公共交通のあり方

問 7-1：蒲郡市内の公共交通は、どのような「目的」のために、優先して維持すべきか

「高齢者や身体障害者などの移動が困難な方の「通院・買い物等の生活の足」を確保するため」の割合が最も高く83.5%である。次いで、「中学生・高校生・大学生が「通学」できるようにするため(73.9%)」、「働いている人が「通勤」できるようにするため(44.5%)」である。

蒲郡市の将来的な公共交通のありかたとして優先すべき目的については、通学及び高齢者や障がい者等の移動確保が圧倒的であり、通勤も半数近くは優先すべきとしている。一方で、観光は劣後した。

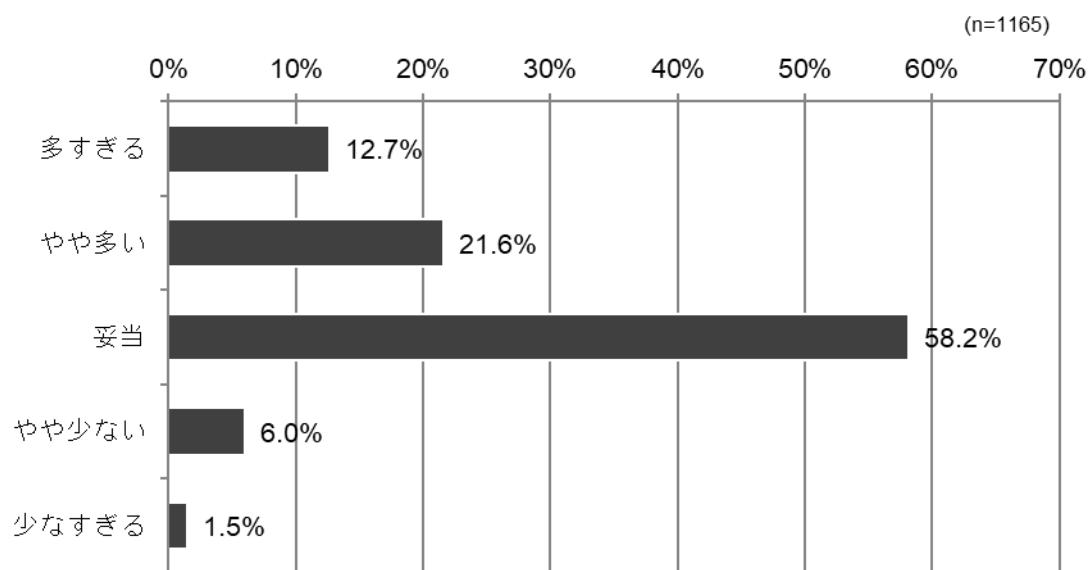
問 7-1:蒲郡市内の公共交通は、どのような「目的」のために、優先して維持すべきか(3つまで)



問 7-2：鉄道・路線バス・支線バス等を維持するために年間約2億1千万円の財政負担をしています。
この負担額を、どう思いますか

「妥当」の割合が最も高く58.2%である。次いで、「やや多い(21.6%)」、「多すぎる(12.7%)」である。
概ね現状の全体の財政負担が額を支持されているが、多すぎるという批判も一定ある。

問 7-2:鉄道・路線バス・支線バス等を維持するために年間約2億1千万円の財政負担をしています。この負担額を、どう思いますか(択一式)

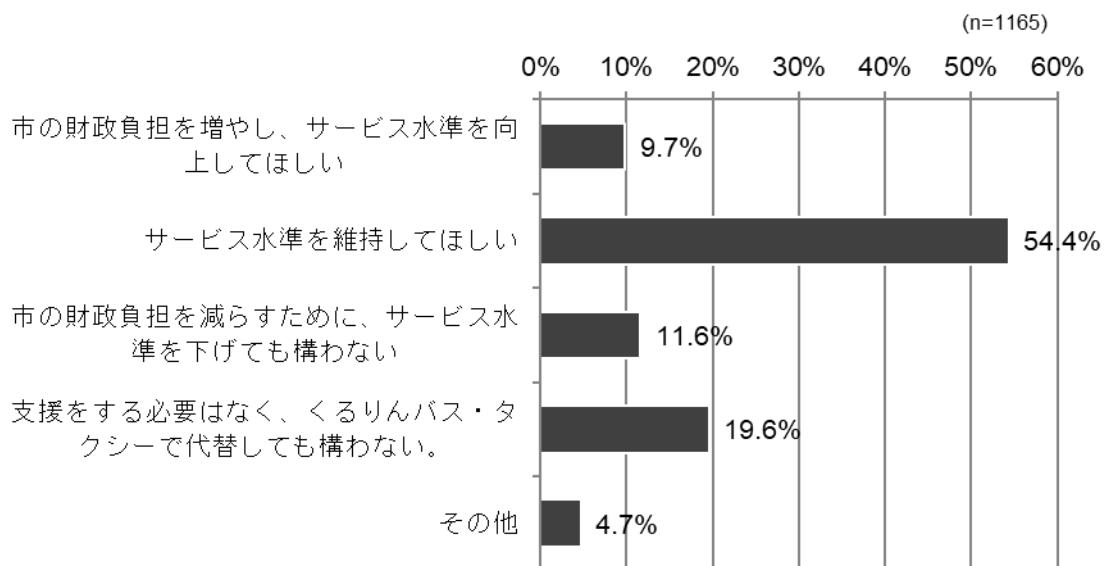


問 7-3：民間路線バスの市の財政負担について

「サービス水準を維持してほしい」の割合が最も高く54.4%である。次いで、「支援をする必要はなく、くるりんバス・タクシーで代替しても構わない。(19.6%)」、「市の財政負担を減らすために、サービス水準を下げても構わない(11.6%)」である。

路線バスについては、現状の水準維持を希望する者が半数であるが、サービス水準の低下やタクシー代替を希望する声も一定ある。

問 7-3: 民間路線バスの市の財政負担について(択一式)

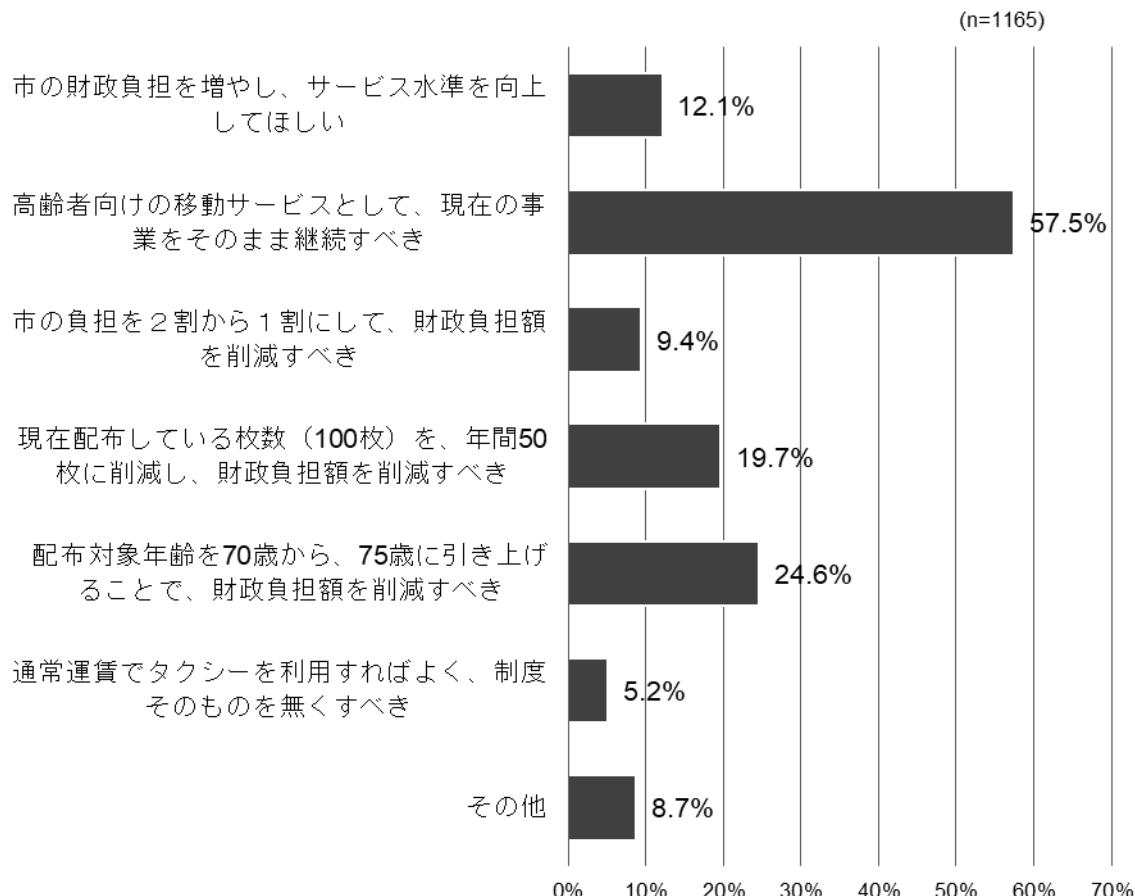


問 7-4 :「高齢者タクシー運賃助成事業」の財政負担について

「高齢者向けの移動サービスとして、現在の事業をそのまま継続すべき」の割合が最も高く57.5%である。次いで、「配布対象年齢を70歳から、75歳に引き上げることで、財政負担額を削減すべき(24.6%)」、「現在配布している枚数(100枚)を、年間50枚に削減し、財政負担額を削減すべき(19.7%)」である。

「高齢者タクシー運賃助成事業」については現状維持と、財政負担削減とがやや拮抗している。

問 7-4:「高齢者タクシー運賃助成事業」の財政負担について(複数選択式)

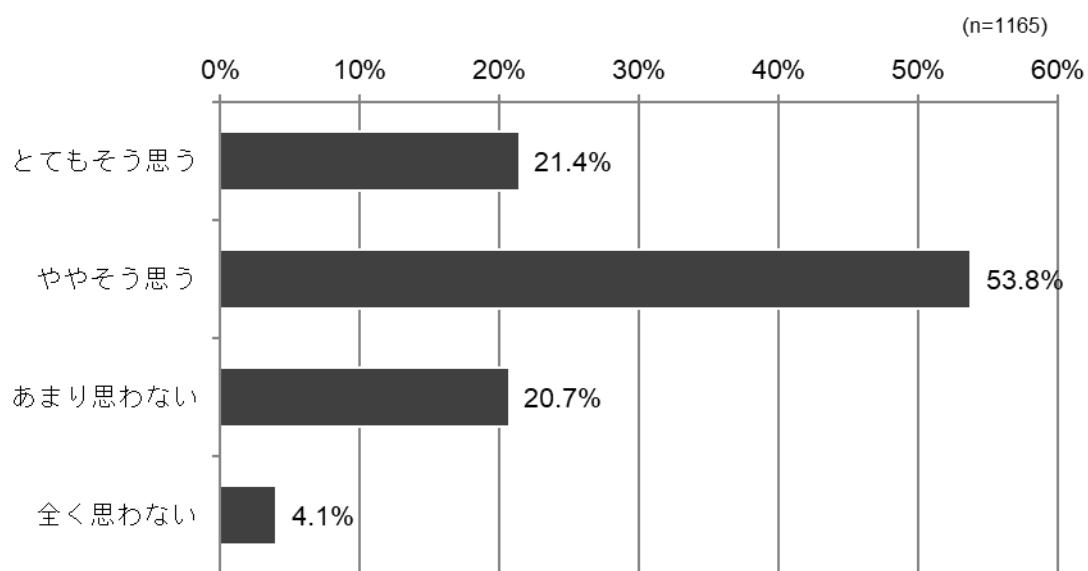


問 7-5：市の財政負担が増大しても、市の役割として公共交通を維持していくべきか

「ややそう思う」の割合が最も高く 53.8%である。次いで、「とてもそう思う(21.4%)」、「あまり思わない(20.7%)」である。

公共交通を維持していくことについては財政投入を許容する傾向にある。

問 7-5: 市の財政負担が増大しても、市の役割として公共交通を維持していくべきか(択一式)

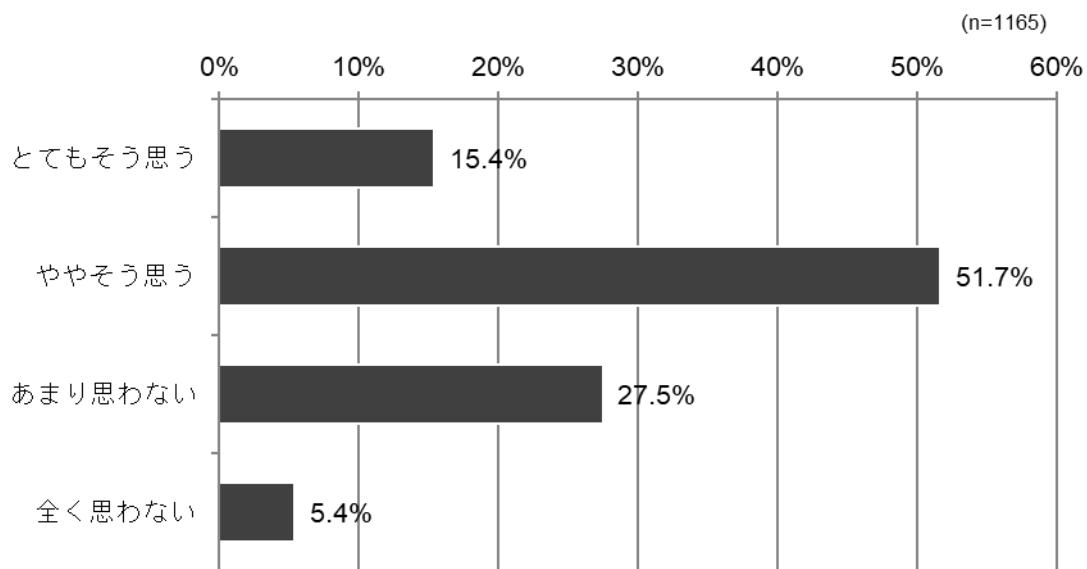


問 7-6：市の公共交通について、今後は、一律ではなく、需要の多いところを中心にサービスを向上するべきだと思いますか。

「ややそう思う」の割合が最も高く51.7%である。次いで、「あまり思わない(27.5%)」「とてもそう思う(15.4%)」である。

需要が多いところを優先すべきという声がやや多い。

問 7-6: 市の公共交通について、今後は、一律ではなく、需要の多いところを中心にサービスを向上するべきだと思いますか。(択一式)

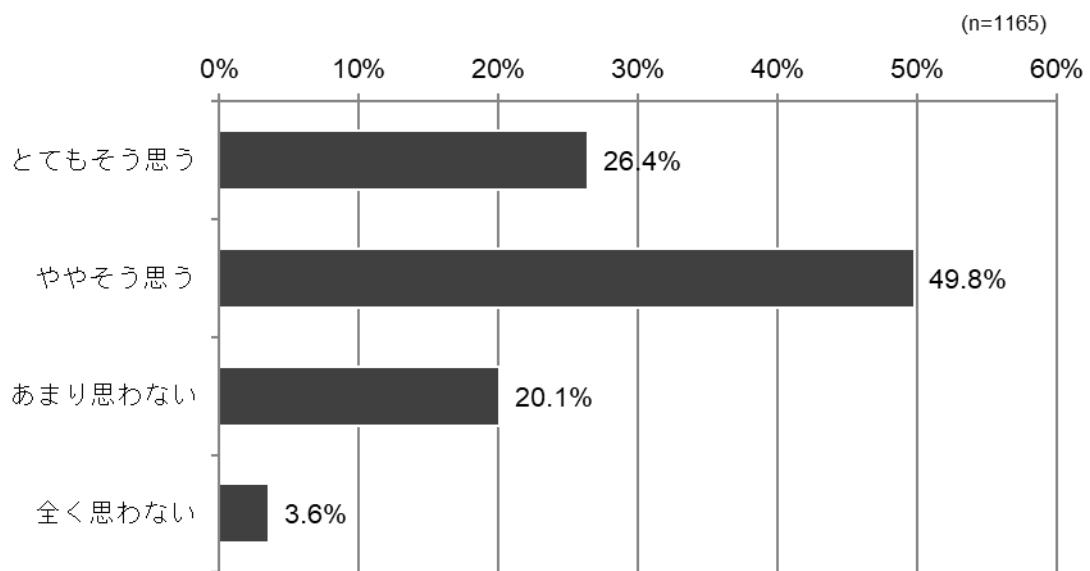


問 7-7：子どもたちが日常的に通学などに利用できるような公共交通を構築するべきだと思いますか。

「ややそう思う」の割合が最も高く49.8%である。次いで、「とてもそう思う(26.4%)」、「あまり思わない(20.1%)」である。

子どもたちが日常的に通学などに利用できるような公共交通を構築するべきかについては支持する割合が大きい。

問 7-7: 子どもたちが日常的に通学などに利用できるような公共交通を構築するべきだと思いますか。(択一式)



問 7-8：観光客や住民が利用できる観光・周遊を目的としたバス等の公共交通があるとよいと思いますか。

「ややそう思う」の割合が最も高く37.5%である。次いで、「あまり思わない(34.6%)」、「とてもそう思う(17.5%)」である。

観光目的としての公共交通については意見が拮抗している。

問 7-8: 観光客や住民が利用できる観光・周遊を目的としたバス等の公共交通があるとよいと思いますか。(択一式)

